

こだいらくども・若者みらいプラン (骨子案)

目次

「こども」の表記について

国における行政文書では、こども基本法の基本理念を踏まえ、特別な場合を除き、平仮名表記の「こども」が用いられています。このことを踏まえ、市が作成する公文書においても、特別な場合を除き、平仮名表記の「こども」を用いています。本計画においても、特別な場合を除き、平仮名表記の「こども」を用います。

なお、特別な場合とは以下のとおりです。

- ① 法令に根拠がある語を用いる場合
- ② 固有名詞を用いる場合
- ③ 他の語との関係で「こども」表記以外を用いる必要がある場合

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨と背景

計画策定の趣旨

市では、平成 30(2018)年 3 月に「小平市子ども・若者計画」(平成 30(2018)年度から令和 9(2027)年度まで)を策定し、「子ども・若者が夢と希望をもって、自分らしく自立し躍動できるこだいらをめざして」を基本理念として、こども・若者の健やかな成長と自立を支援するために様々な取組を推進してきました。

しかしながら、近年のこども・若者を取り巻く環境は大きく変化しており、孤独・孤立の顕在化や児童虐待、不登校、引きこもりなどの問題が社会全体の課題として指摘されており、適切な対応が求められています。

また、子育て家庭を取り巻く環境についても、共働き世帯の増加や地域社会のつながりの希薄化などにより子育て家庭の孤立が広がり、育児に対する負担や不安が増大するなど、その厳しさが増している状況にあります。

こうした中、国では令和 5(2023)年 4 月、こどもに関係する行政の一元化や取組の強化を目的として「こども家庭庁」が発足し、それと同時に、こども施策を総合的に推進することを目的とした「こども基本法」が施行されました。

こども基本法では、すべてのこどもが、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指すことが謳われています。

また、市町村に対しては、国が策定する「こども大綱」を勘案し、その地域におけるこども施策についての計画(市町村こども計画)の策定を求めています。

このような状況を踏まえ、市では、こども・若者・子育て家庭を取り巻く様々な課題に対応するため、計画期間の終了前ではありますが「小平市子ども・若者計画」を前倒しで見直すとともに、こども基本法で定める「市町村こども計画」として新たに「こだいらこども・若者みらいプラン」を策定します。

このプランを通して、小平市のすべてのこども・若者が、身体的、精神的、社会的に幸福な生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現を目指します。

計画策定の背景

1 国の動向

こども・子育て支援

令和元（2019）年10月から、子育て家庭の経済的負担の軽減を図るため、幼児教育・保育の無償化が開始されました。

令和6（2024）年6月には、子ども・子育て支援法等の一部が改正され、ライフステージを通じた子育てに係る経済的支援の強化や、すべてのこども・子育て世帯を対象とする支援の拡充などが図られました。

こども・若者支援

令和3（2021）年4月には、「第三次子供・若者育成支援推進大綱」が策定され、5つの基本方針「全ての子供・若者の健やかな育成」、「困難を有する子供・若者やその家族の支援」、「創造的な未来を切り開く子供・若者の支援」、「子供・若者の成長のための社会環境の整備」「子供・若者の成長を支える担い手の養成・支援」が掲げられました。

令和6（2024）年6月に改正された子ども・若者育成支援推進法では、家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っており、社会生活を円滑に営む上で困難を有するこども・若者をヤングケアラーと定義し、支援の対象として法律上に明記されました。

こどもの貧困対策

令和6（2024）年6月には、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」から「こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律」に改められるとともに、解消すべきこどもの貧困の具体化や基本理念の充実等が図られました。

児童虐待防止対策

児童虐待の相談対応件数の増加など、子育てに困難を抱える世帯がこれまで以上に顕在化してきている状況等を踏まえ、令和4（2022）年に児童福祉法が改正され、子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化等が図られました。この改正により、市においてはすべての妊産婦、子育て世帯、こどもへ一体的に相談支援を行う機能を有する機関（こども家庭センター）の設置に努めることとされました。

障がいがあるこどもへの支援

令和4（2022）年の児童福祉法の改正において、児童発達支援センターが地域における障がい児支援の中核的役割を担うことが明確化されました。

少子化対策

急速な少子化・人口減少に歯止めをかけるため、令和5（2023）年12月に、「こども未来戦略」～次元の異なる少子化対策の実現に向けて～が閣議決定されました。この中では、若い世代の所

得を増やすこと、社会全体の構造・意識を変えること、すべてのこども・子育て世帯を切れ目なく支援することの3つが基本理念として掲げられています。

また、令和6（2024）年6月には、少子化対策関連法が成立し、児童手当の拡充や、親の就労に関係なくこどもを保育園等に預けられる「乳児等通園支援事業」の創設などが定められました。

こども基本法の施行

令和5（2023）年4月、こども家庭庁が創設され、こども施策を総合的に推進することを目的とした「こども基本法」が施行されました。

令和5（2023）年12月には「こども大綱」が閣議決定され、それまでの「少子化社会対策大綱」、「子供・若者育成支援推進大綱」、「子供の貧困対策」の推進に関する大綱が「こども大綱」に一元化されました。

また、令和6（2024）年5月には、こども家庭庁が各省庁と連携して進めるこども政策の全体像である「こどもまんなか実行計画2024」が示され、以降、施策の実施状況やこども大綱に掲げた数値目標・指標等の結果を踏まえ、毎年改定されています。

子ども・子育て支援法等の改正（少子化対策関連法の成立）

こども未来戦略に基づく今後3年間の集中的な取組としての「加速化プラン」に盛り込まれた施策を着実に実行するため、令和6（2024）年6月に、子ども・子育て支援法等の一部が改正されました。この改正では、ライフステージを通じた子育てに係る経済的支援の強化（児童手当の拡充や妊婦のための支援給付の創設など）、すべてのこども・子育て世帯を対象とする支援の拡充（親の就労に関係なくこどもを保育園等に預けられる「乳児等通園支援事業」の創設や産後ケア事業の提供体制の整備など）、共働き・共育での推進（出生後休業支援給付の創設など）が定められました。

2 東京都の動向

東京都こども基本条例

令和3（2021）年4月に施行され、「子どもの権利条約」の精神にのっとり、こどもを権利の主体として尊重し、こどもの最善の利益を最優先にするという基本理念のもと、こどもの安全安心、遊び場、居場所、学び、意見表明、参加、権利擁護など多岐にわたるこども政策の基本的な視点が一元的に規定されています。

こども未来アクション

チルドレンファーストの社会の実現を目指し、都政の政策全般をこども目線で捉え直し、こども政策を総合的に推進されています。令和7（2025）年1月には、こども目線で捉え直した政策の現在地と、こどもとの対話を通じた継続的なバージョンアップの指針となる「こども未来アクション2025」が公表されました。

東京都の少子化対策

望む人が結婚、妊娠、出産、子育てを安心してできる社会の実現に向けて、様々な取組が進められています。令和7（2025）年1月に「東京都の少子化対策2025」が策定され、出会い・結婚、妊娠・出産、子育て期の支援、教育・住宅など分野ごとの施策が幅広く展開されています。

東京都子供・子育て支援総合計画

こども・子育ての多様な取組を推進することにより、安心してこどもを産み育てられ、すべてのこどもたちが健やかに成長できる社会の実現を目指し、令和2（2020）年3月に「東京都子供・子育て支援総合計画（第2期）」が策定されました。東京都子供への虐待防止条例の制定や子どもの貧困対策推進法の改正を踏まえ、こどもを権利の主体として尊重することや保育サービス及び学童クラブの更なる充実などが掲げられています。

令和5（2023）年3月には、少子化の進行やコロナ禍の影響などを踏まえ、こども・子育て施策を一層充実させることや、保育サービス・学童クラブに関する目標の更新、計画事業の追加・見直しを目的として中間見直しがされました。

令和7（2025）年3月策定の「東京都子供・子育て支援総合計画（第3期）」では、都におけるこども・子育てに関する総合計画として、「量の拡大」から「保育の質の向上」に重点を置くことや、質・量の両面でこどもの居場所を確保すること、こどもの貧困対策を新たな計画の目標とすること、意見を聴く取組としてこどもを対象としたヒアリング等を実施することなどが明記されています。

東京都子供・若者計画

令和2（2020）年3月に、子ども・若者育成支援推進法に基づく計画として、「東京都子供・若者計画（第2期）」が策定されました。一人ひとりのこども・若者の最善の利益を尊重する視点、こども・若者の状況に応じて支援する視点、こども・若者の支援に社会全体で重層的に取り組む視点が計画のポイントとして掲げられています。

令和7年（2025）3月には、新たに「東京都子供・若者計画（第3期）」が策定されました。子供・若者の一人ひとりが、青年期に社会的自立を果たすことができるよう、その成長を社会全体で応援することが計画の理念として掲げられています。施策推進の視点としてこども・若者を権利の主体として認識し、権利を保障し、一人ひとりのこども・若者の最善の利益を尊重する視点、当事者であるこども・若者の目線に立って意見を聴き、対話をしながら支援に反映する視点、こども・若者のライフステージを見通した切れ目のない支援を継続的に行う視点、こども・若者一人ひとりが幸せな状態で成長できるよう、良好な成育環境を確保する視点、こども・若者の支援に社会全体で重層的に取り組む視点の5つが明記されています。

※ 東京都では、「こども未来アクション」、「東京都の少子化対策」、「東京都子供・子育て支援総合計画」及び「東京都子供・若者計画」の4つを合わせて、「こども基本法」で定める都道府県こども計画として位置付けています。

3 小平市の動向

小平市子ども・若者計画の策定

「第2次小平市青少年育成プラン」(平成29(2017)年度末で終了)で取り組んできた青少年施策の成果を継承するとともに、複雑化するこども・若者をめぐる問題に的確に対応するため、平成30(2018)年3月に「小平市子ども・若者計画」を策定しました。

児童発達支援センターこだいらの設置

令和4(2022)年4月に、たいよう福祉センターの改修及び増築により、発達支援相談拠点の機能を併せ持つ児童発達支援センターこだいらを設置し、こどもの発達に関わる相談・支援の強化を図りました。

こども家庭センターの設置

児童福祉法の改正を受け、令和6(2024)年4月に、母子保健機能と児童福祉機能を一体的に運営するこども家庭センターを設置しました。これにより、すべての妊産婦、子育て世帯、こどもへの包括的な支援体制の強化が図られました。

第三期小平市子ども・子育て支援事業計画の策定

第二期小平市子ども・子育て支援事業計画の成果と課題、調査により把握した市民ニーズを踏まえ、令和7(2025)年3月に第三期小平市子ども・子育て支援事業計画を策定しました。

第1子保育料無償化

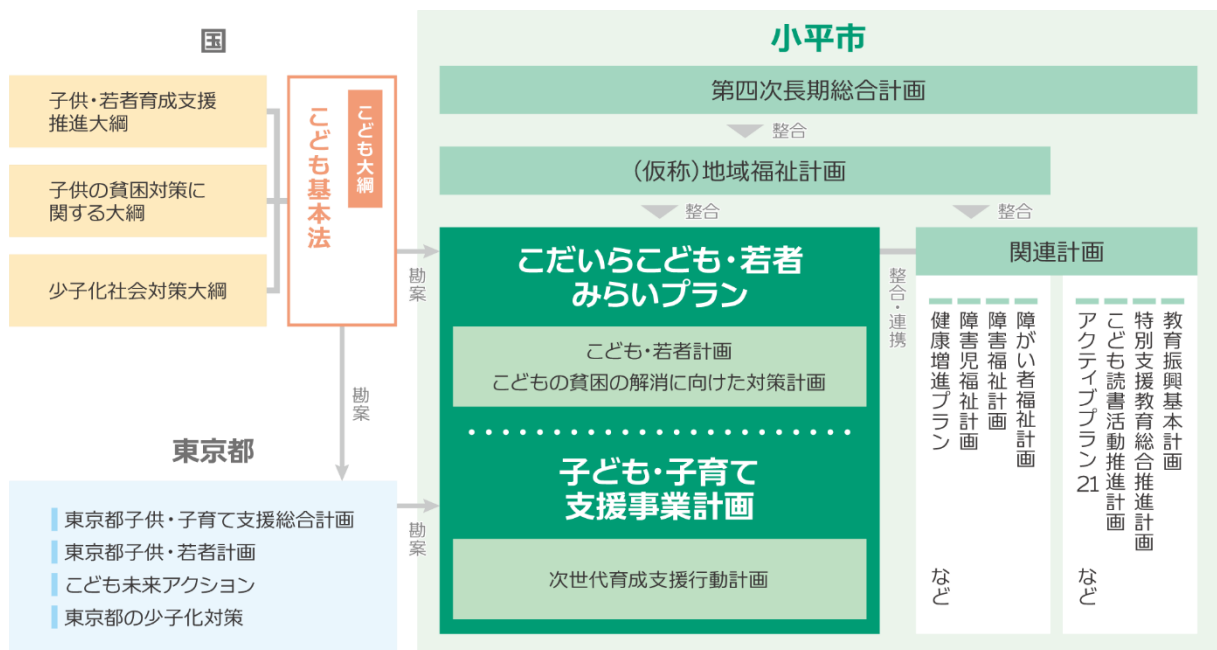
保育園利用世帯の負担軽減を図るため、東京都が保育園利用世帯の保育料の軽減措置を拡充することを踏まえ、市においても、令和7年9月から認可保育園等に通う0～2歳児の第1子の保育料を無償化しました。

2 計画の位置づけ

本計画は、こども基本法第10条第2項を策定根拠とし、小平市のこども施策を推進する総合的な計画として、子ども・若者育成支援推進法第9条第2項に規定する市町村子ども・若者計画、こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律第10条第2項に規定する市町村計画を包含します。

また、計画の策定にあたっては、小平市第四次長期総合計画や、関連する個別計画等と整合性を図ります。

【計画の関連図】



3 計画の期間

本計画の期間は、令和 8（2026）年度から令和 16（2034）年度までの 9 年間とします。

第三期小平市子ども・子育て支援事業計画（令和 7（2025）年度から令和 11（2029）年度まで）の期間の終了に併せて中間見直しを実施し、第四期小平市子ども・子育て支援事業計画（令和 12（2030）年度から令和 16（2034）年度まで）の期間終了に伴う、次期こだいらこども・若者みらいプラン策定時には 2 つの計画を統合します。

■計画の期間

| 令和 6年度 | 令和 7年度 | 令和 8年度 | 令和 9年度 | 令和 10年度 | 令和 11年度 | 令和 12年度 | 令和 13年度 | 令和 14年度 | 令和 15年度 | 令和 16年度 | 令和 17年度 | 令和 18年度 |
|--------------|------------------------------------|-----------|-----------|------------|------------|----------------------|------------|------------|------------|------------|--------------------------------|------------|
| | | | | | | | | | | | | |
| 子ども・ 若者計画 | こだいらこども・若者みらいプラン (令和8年度～令和16年度) | | | | | | | | | | 次期 こだいら こども・若者 みらいプラン | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | 第三期 子ども・子育て支援事業計画 | | | | | 第四期 子ども・子育て支援事業計画 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

4 計画の対象

本計画の対象は、市内のすべてのこども・若者とその家族、地域住民、事業者とします。

こども・若者の範囲は、0 歳からおおむね 30 歳未満までとしますが、取組の内容や施策によっては妊産婦や 40 歳未満までのポスト青年期の者も対象とします。

また、こども基本法では、「こども」について、心身の発達の過程にある者と定義していますが、本計画におけるこども・若者の年齢区分については以下のとおりとします。

こども：0 歳から 18 歳未満までの者

若 者：12 歳から 30 歳未満までの者

※こどもと若者は年齢で区切られるものではなく、重なり合う部分があります。

■本計画の対象年齢

| | 乳幼児期 (0～6歳) | 学童期 (6～12歳) | 思春期 (12～18歳) | 青年期 (18～29歳) | ポスト青年期 (29～39歳) |
|-----|----------------|----------------|-----------------|-----------------|--------------------|
| こども | | | | | |
| 若者 | | | | | |

5 計画の策定体制

(1) (仮称) 小平市こども計画庁内検討委員会

こども施策を効果的かつ総合的に推進するため、こども施策に関連する 20 課の課長で構成する「(仮称) 小平市こども計画庁内検討委員会」において、庁内横断的に検討を行いました。また、その下部組織として「(仮称) 小平市こども計画庁内検討部会」を設置し、調査・研究を行いました。

(2) 青少年問題協議会

公募市民や青少年に関係する団体を代表する者、学校教育の関係者、学識経験者、関係行政機関の職員で構成する小平市青少年問題協議会において、意見を伺いました。

(3) 実態把握

本計画の策定に先立ち、こども・若者の日常生活や考えなどの実態を把握し、計画の基礎資料とするため、令和 6 年 11 月から 12 月にかけて「小平市こども・若者の意識・実態調査」を実施しました。

【調査対象及び調査票の配付・回収状況】

| 調査対象 | 標本数 | 有効回収数 | 有効回収率 |
|-----------------|-------|-------|--------|
| 小学校 5 年生 | 1,714 | 1,532 | 89.38% |
| 中学校 2 年生 | 1,462 | 1,199 | 82.01% |
| 高校生年代 (16歳～18歳) | 1,000 | 372 | 37.20% |
| 学生・一般 (18歳～29歳) | 2,000 | 483 | 24.15% |
| 関係団体 (関係者) | 172 | 79 | 45.93% |

(4) 個別の意見聴取

こども基本法第 11 条では、こども施策を策定、実施、評価するとき、こどもや若者、子育て当事者等の意見を反映するために必要な措置を講ずることを国や地方公共団体に義務付けていることから、本計画策定のための基礎的情報の収集手段の一つとして、こどもや若者からの意見聴取（グループワーク等）も併せて行いました。

【令和 6 年度】

| | 実施日・期間 | 内容 |
|---|----------------------------|---|
| ① | 5 月 17 日 | 令和 6 年度小川西町公民館事業企画委員企画子育て支援講座第 1 回目で、講義とグループワークを実施 |
| ② | 6 月 8 日 | 児童会・生徒会サミット（こだいら特別活動の日）にて、中学校区ごとの人権標語を作成（教育委員会） |
| ③ | 7 月 30 日～ 8 月 2 日 | 中央公民館「ジュニア大学 小平の美味しいものでクッキング！（全 4 回）」参加者にアンケート調査を実施 |
| ④ | 8 月 22 日 | 学習支援事業の中学 3 年生向け夏期講習出席者にアンケート調査を実施 |
| ⑤ | 9 月 8 日 | ニュースポーツデー（文化スポーツ課主催）に参加した保護者（子育て世代）等にアンケート調査を実施 |
| ⑥ | 9 月 18 日 | 令和 6 年度第 2 回市民と市長のタウンミーティングを小川町二丁目児童館で実施し、児童と市長の意見交換を実施 |
| ⑦ | 10 月 6 日～ 25 日 | 地域学習支援課主催青少年リーダー講座参加者にアンケート調査を実施 |
| ⑧ | 11 月～12 月 | 武蔵野美術大学「市の課題に関する報告会」で、クリエイティブイノベーション学科学生に調査・研究を依頼 |
| ⑨ | 令和 7 年 1 月 14 日 | 小平第四中学校生徒会の生徒にグループワーク形式で意見聴取を実施 |
| ⑩ | 令和 7 年 1 月 19 日～29 日 | 小川町二丁目児童館にてシール投票「こどもの権利って知ってる？」を実施 |
| ⑪ | 令和 7 年 1 月 29 日～2 月 7 日 | 二十歳のつどい実行委員会委員にアンケート調査を実施（地域学習支援課経由） |
| ⑫ | 令和 7 年 2 月 17 日 | 都立小平西高等学校生徒会の生徒にグループワーク形式で意見聴取を実施 |
| ⑬ | 令和 6 年 11 月 ～令和 7 年 1 月 | こども家庭センターの妊婦面談対象者にアンケート調査を実施 |
| ⑭ | 令和 7 年 3 月 28 日 | 大学生にヤングケアラーの周知・啓発事業「出前授業」とグループワーク |

【令和 7 年度】

| | 実施日・期間 | 内容 |
|---|----------|-----------------|
| ⑮ | 4 月 11 日 | 武蔵野美術大学生とラジオに出演 |

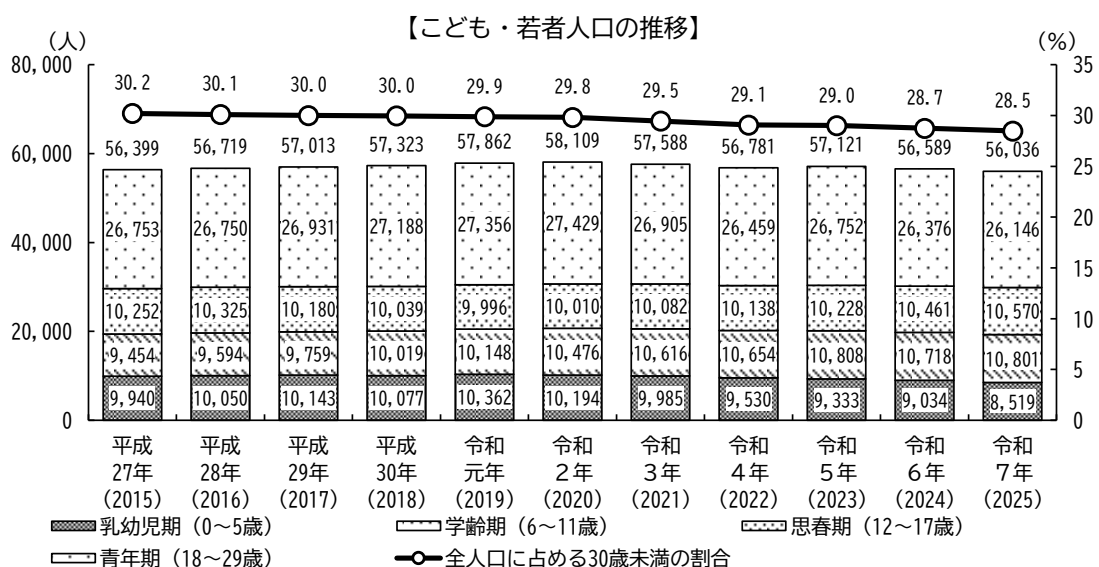
第2章 小平市のこども・若者を取り 巻く現状と課題

1 現状

1 統計・調査結果から見える小平市のこども・若者の現状

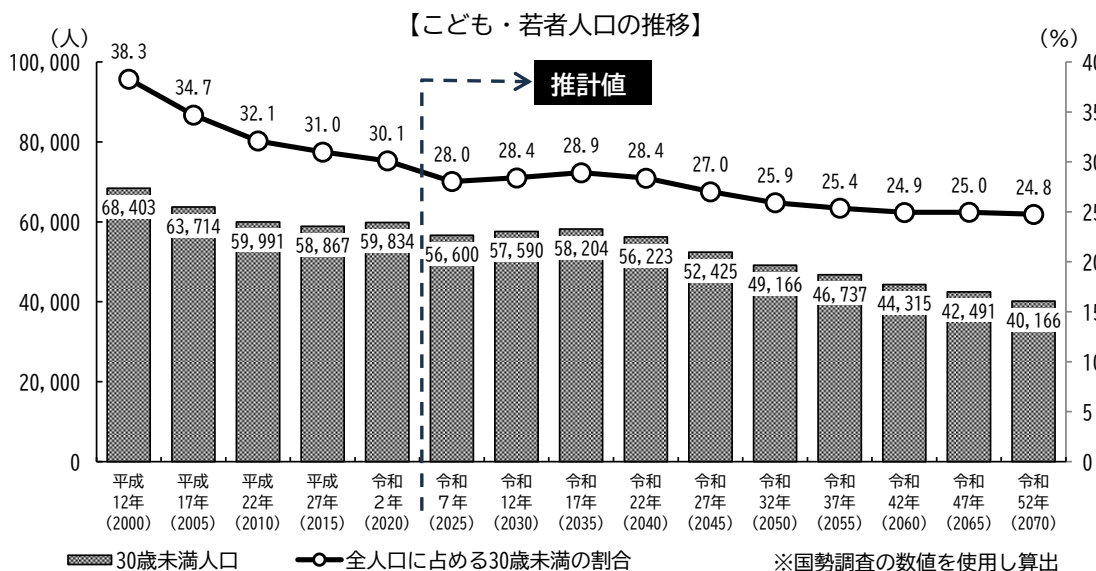
(1) こども・若者の人口

小平市の人口は、196,799人（令和7（2025）年1月1日現在）で、そのうち、こども・若者（0歳～29歳）の人口は、56,036人と、人口の3割弱を占めています。直近10年間のこども・若者人口の推移を見ると、令和2（2020）年までは増加していますが、以降はおおむね減少しています。また、全人口に占めるこども・若者の割合は、年々減少傾向となっています。



【資料：住民基本台帳（各年1月1日現在）】

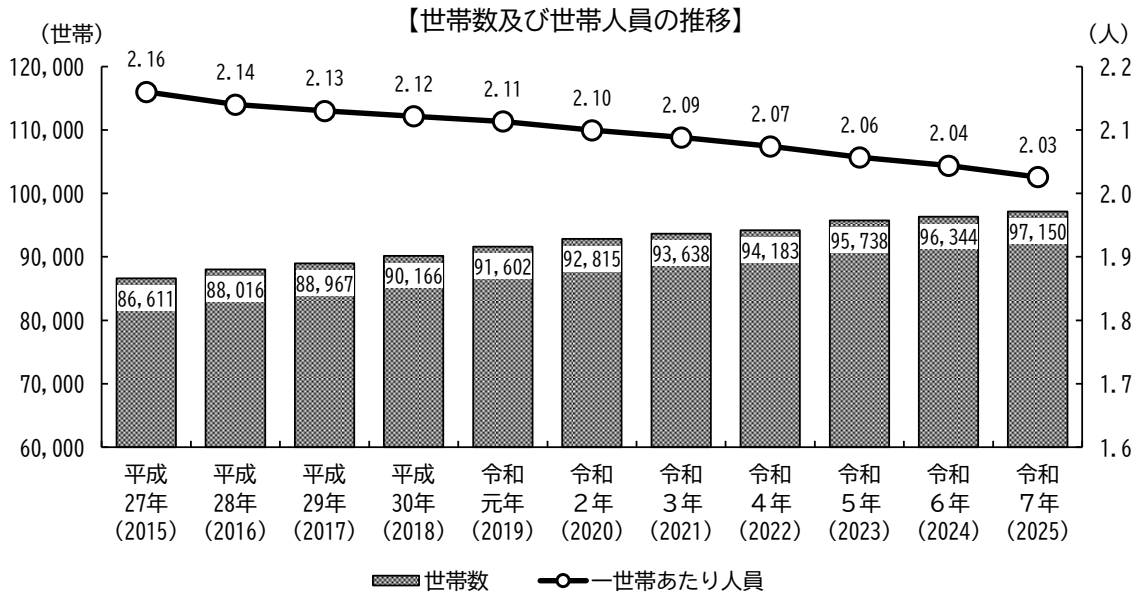
小平市が行ったこども・若者の将来人口推計によると、こども・若者の人口は令和7年度以降令和17年度までは微増で、令和17年度以降緩やかに減少し、人口に占めるこども・若者の割合は2割台半ばで推移する見込みです。



【資料：令和2年国勢調査に基づく小平市の将来人口推計】

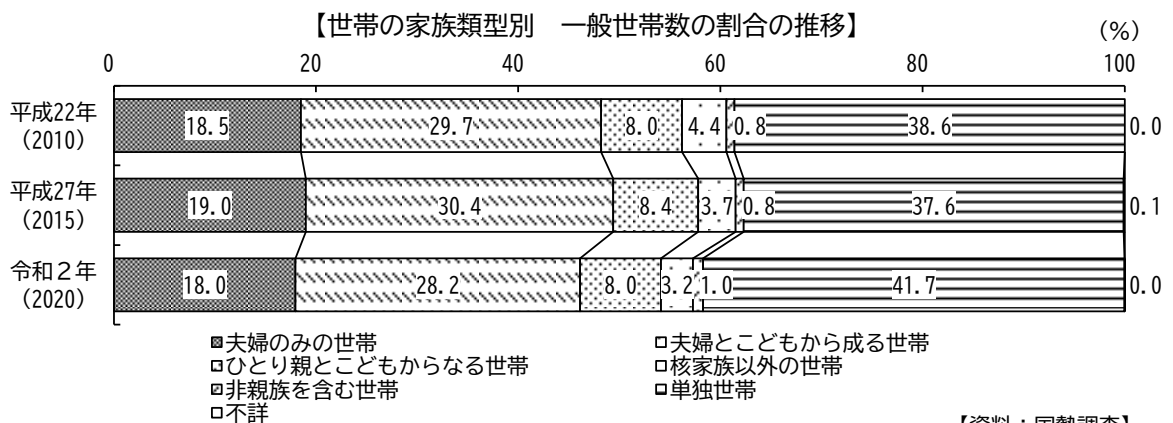
(2) 世帯の状況と推移

小平市の世帯数は年々増加の一方、一世帯当たりの世帯人員は年々減少しており、令和7（2025）年に2.03となっています。



【資料：住民基本台帳（各年1月1日現在）】

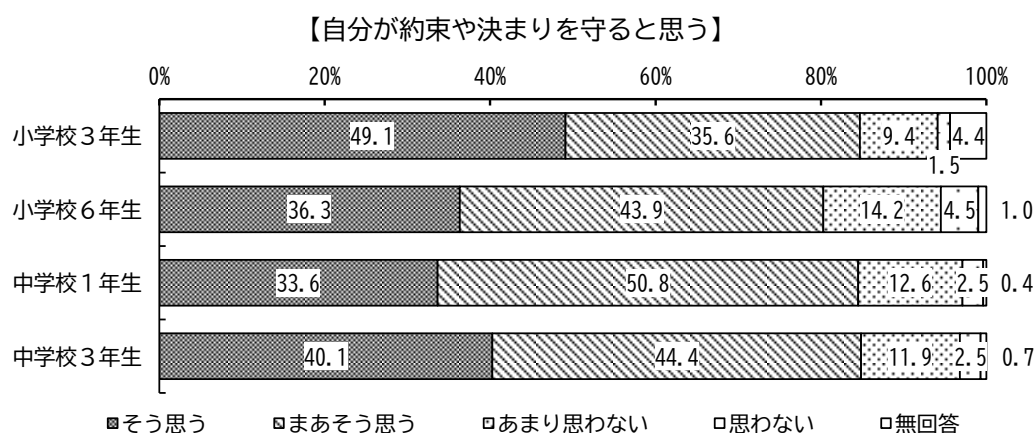
家族類型別割合の推移を見ると、令和2（2020）年に夫婦とこどもから成る世帯が28.2%となり、前回調査時よりその割合が減少しています。一方、単独世帯は、令和2（2020）年に41.7%となり、一般世帯の中で最も割合が高い家族類型となっています。



【資料：国勢調査】

(3) 模範意識

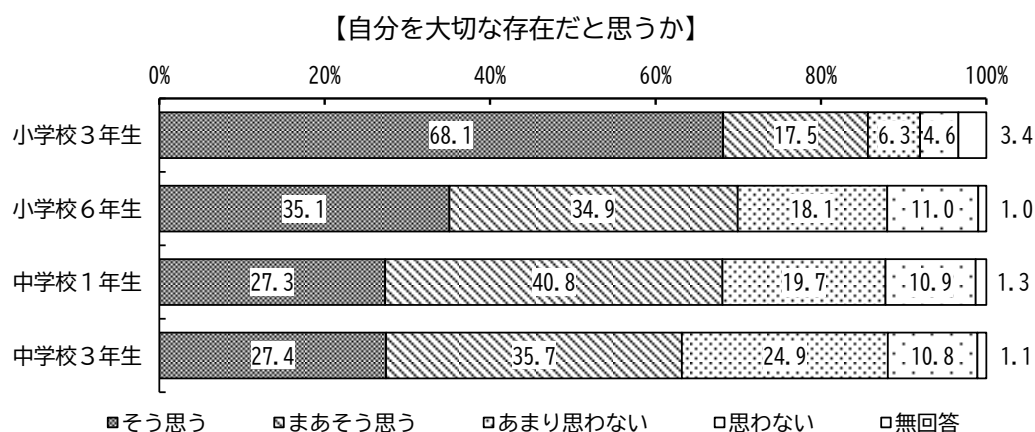
小・中学生で自分が「約束や決まりを守る」と思う人の割合は、どの学年でも8割を超えています。



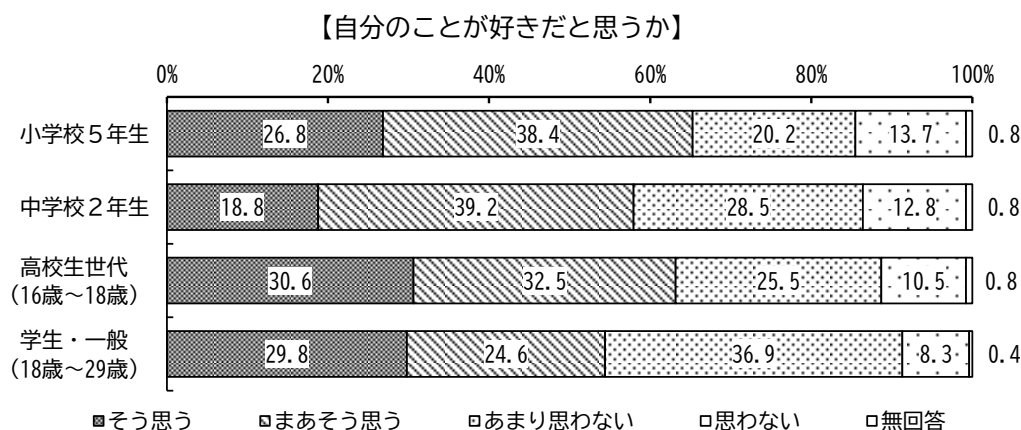
【資料：小平市の教育に関するアンケート調査（令和3（2021）年度）】

(4) 自己肯定感

自分を「大切な存在（好き）」だと思う人の割合は、小学校3年生で85.6%と最も多くなっていますが、年齢が上がるほど減少する傾向にあり、学生・一般で54.4%となっています。

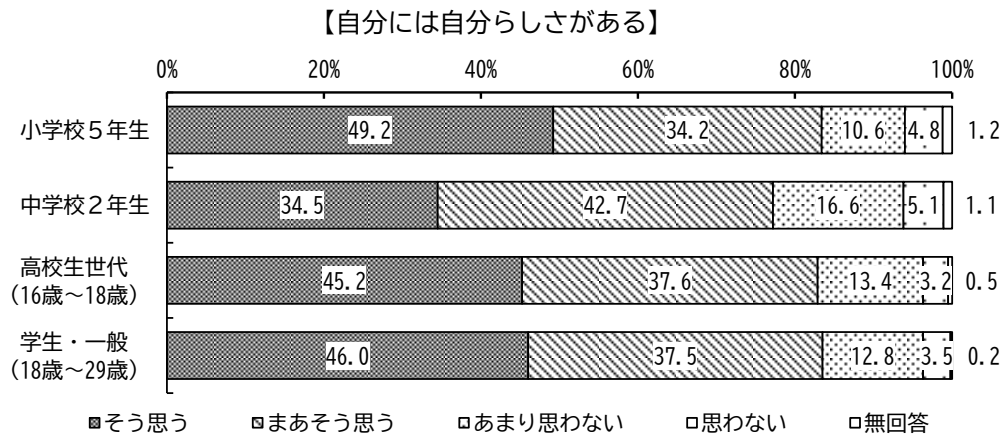


【資料：小平市の教育に関するアンケート調査（令和3（2021）年度）】



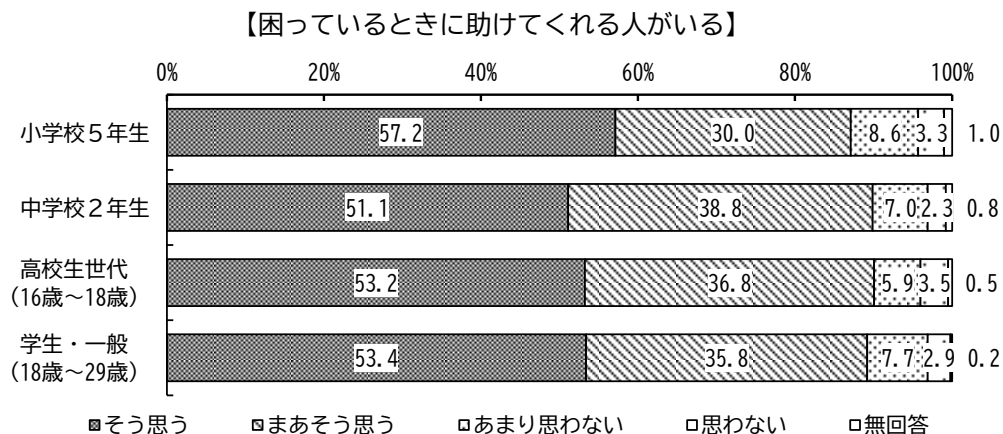
【資料：小平市子ども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

「自分には自分らしさがある」と思う人の割合は、中学校2年生以外の世代で8割を超えています、中学校2年生で77.2%と若干少なくなっています。



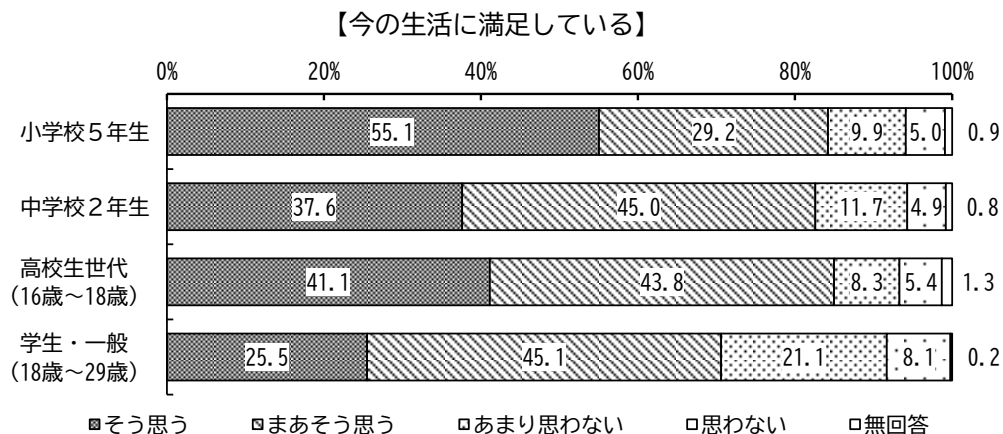
【資料：小平市子ども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

「困っているときに助けてくれる人がいる」と思う人の割合は、どの学年・世代でも8割を超えています。



【資料：小平市子ども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

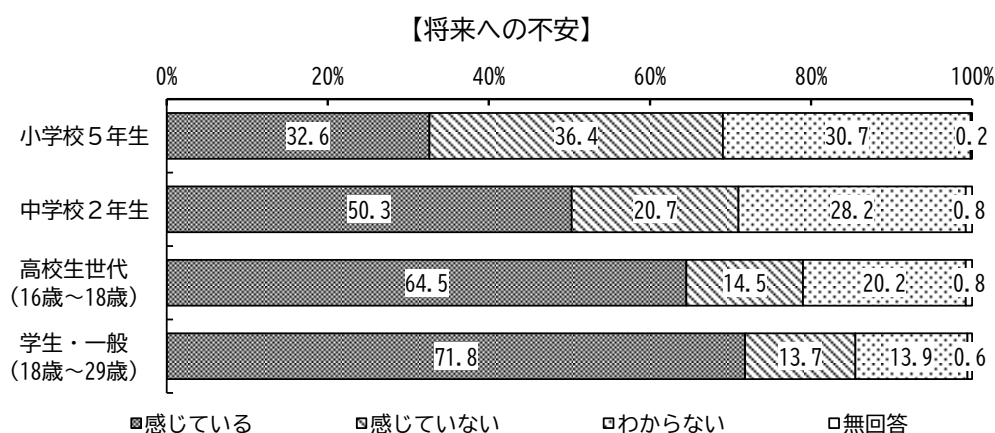
「今の生活に満足している」と思う人の割合は、高校生世代で84.9%と最も多く、18歳以上の若者で70.6%と少なくなっています。



【資料：小平市子ども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

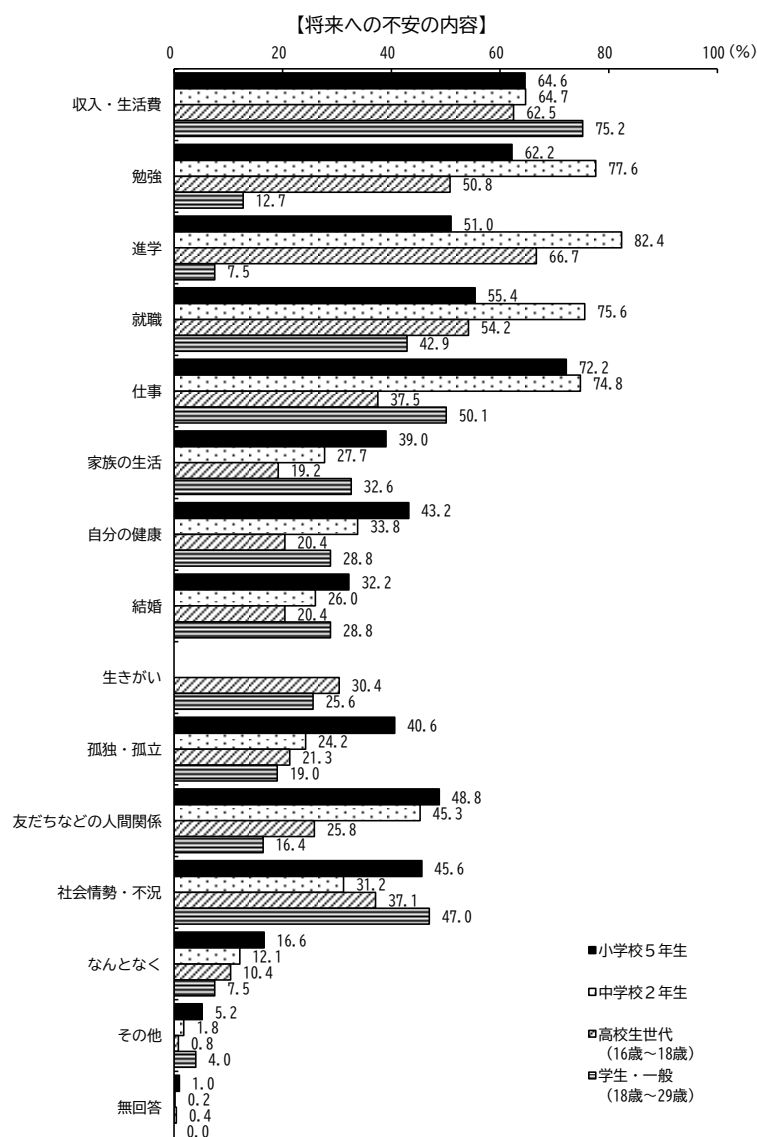
(5) 将来への不安

「将来に不安を感じている」と思う人の割合は、年齢が上がると高くなる傾向にあり、高校生年代で 64.5%、18 歳以上の若者で 71.8%となっています。



【資料：小平市子ども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

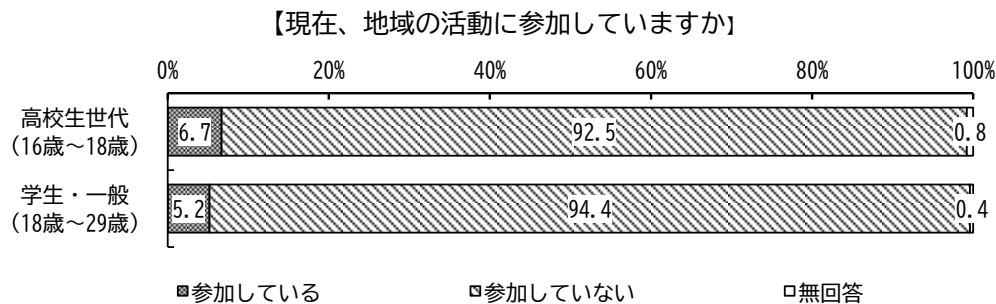
また、不安の内容として、小学校5年生では仕事、中学校2年生では勉強や進学、高校生年代では進学、18 歳以上の若者では収入・生活費が多くなっています。



【資料：小平市子ども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

(6) こども・若者の地域活動

地域活動への参加状況は、「参加している」が高校生世代で6.7%、18歳以上の若者では5.2%となっています。



【資料：小平市こども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

(7) こども・若者の体験、交流活動

小平市では19の小学校区ごとに地域住民を主体とする青少年対策地区委員会が組織され、青少年の健全育成を目的に、キャンプやコンサート、スポーツ大会、クリーン活動など地域に根差した多様な体験・交流行事が実施されています。また、青少年リーダー養成講座や姉妹都市小平町との青少年交歓交流事業を実施しています。

【市が実施している主な体験・交流事業】

| | | 令和2年度 (2020) | 令和3年度 (2021) | 令和4年度 (2022) | 令和5年度 (2023) | 令和6年度 (2024) |
|----------------------|-----------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 青少年リーダー養成講座 | ジュニア受講者数 (小学5・6年生) | 中止 | 32人 | 32人 | 32人 | 32人 |
| | シニア受講者数 (中学・高校生) | 中止 | 35人 | 32人 | 26人 | 25人 |
| 姉妹都市小平町との 青少年交歓交流 | 訪問先 | 中止 | 中止 | 小平町 | 小平市 | 小平町 |
| | 参加人数 | 小平市 | - | 16人 | 15人 | 20人 |
| | | 小平町 | - | 20人 | 20人 | 20人 |
| | | | | | | |

【資料：地域学習支援課】

(8) こども・若者の参画

二十歳の集いではその年度に20歳を迎える市民で構成される実行委員会が企画運営を行い、ダンスフェスティバルでは高校生や大学生が進行や会場整理を担うなど、こども・若者の主体的な事業を実施しています。

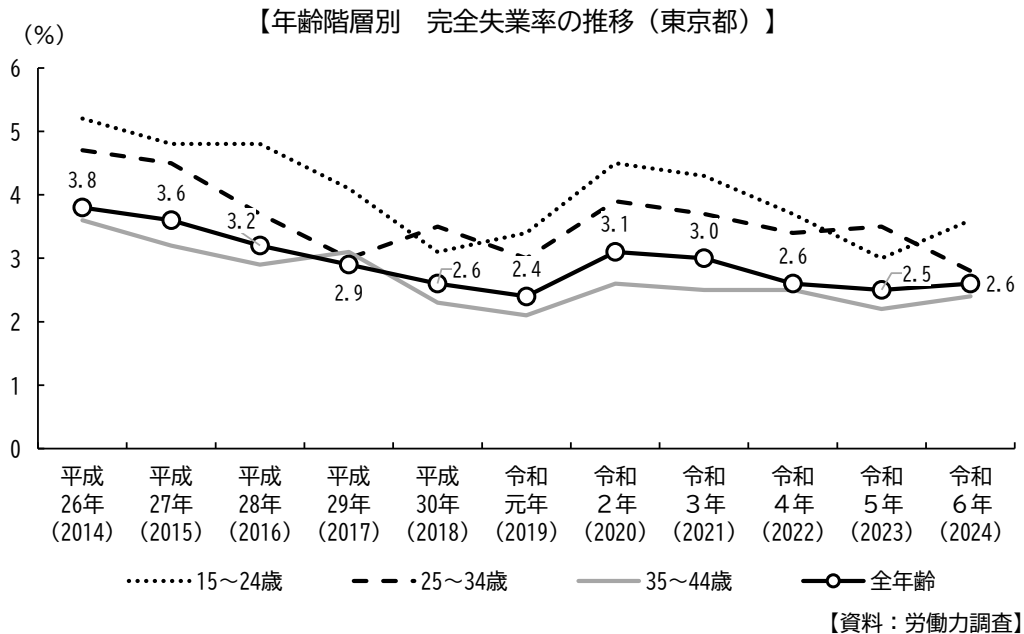
【こども・若者が企画・運営に参画している活動】

| | | 令和2年度 (2020) | 令和3年度 (2021) | 令和4年度 (2022) | 令和5年度 (2023) | 令和6年度 (2024) |
|--------------------------|--------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 成人式実行委員会 | 新成人委員数 | 7人 | 8人 | 9人 | 10人 | 12人 |
| 小平よさこいスクールダンス フェスティバル | 出演者数 | 中止 | 中止 | 516人 | 658人 | 749人 |
| 多摩六都ヤング・ダンス フェスティバル | 出演者数 | 中止 | 中止 | 360人 | 396人 | 441人 |

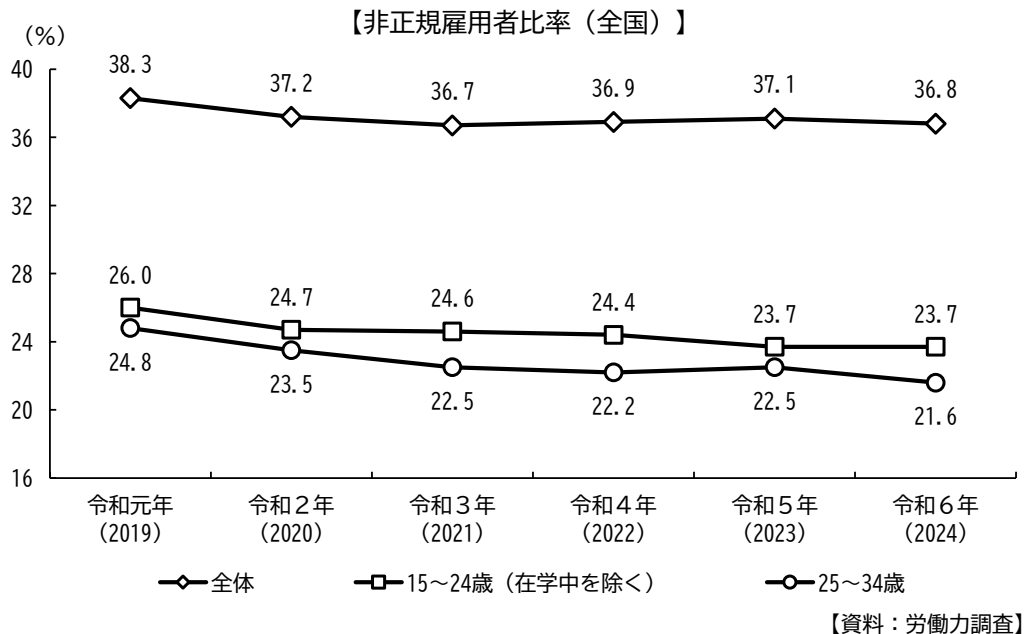
【資料：地域学習支援課】

(9) 若者の就労など

東京都の若者の失業率は、令和2（2020）年を境に低下していますが、全年齢と比較すると、令和6（2024）年では15～24歳のみ高い状態にあります。



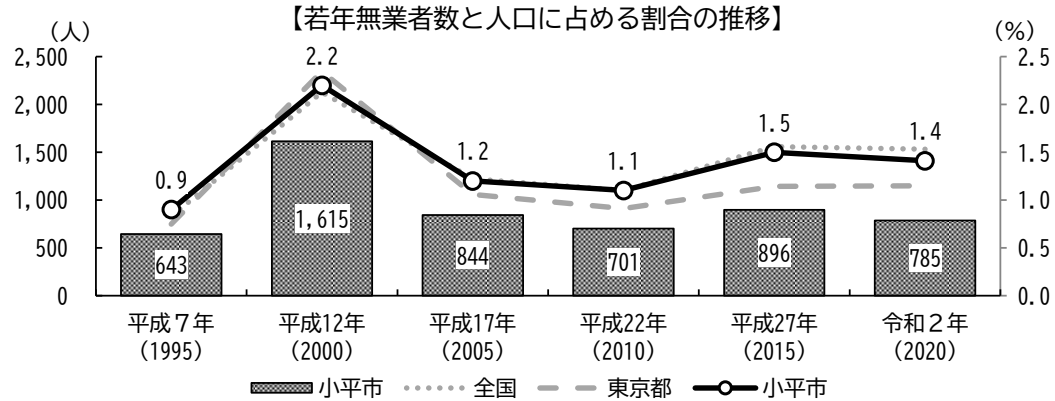
また、全国の非正規雇用者の比率は、令和元（2019）年から、15～24歳、25～34歳ともに、おおむねゆるやかな減少傾向にあります。



(10) 困難を抱えたこども・若者の状況

①若年無業者

国勢調査結果によると、令和2（2020）年の小平市の若年無業者（ニート）の若者は785人、人口に占める割合は1.4%で、前回調査時と比較するとわずかに減少しています。



【資料：国勢調査】

②ひきこもり

令和4（2022）年度に実施した「若者の意識と生活に関する調査」結果（内閣府）から推計されるひきこもりの若者（15歳～39歳）は、全国で65.3万人となっています。

小平市が実施した「こども・若者の意識・実態調査」結果（16歳～29歳）から、ひきこもりの若者を算出すると、有効回収率に占める割合が1.17%（広義のひきこもり）となり、約346人のひきこもりの若者がいる計算となります。

【ひきこもり群の定義・推計数（全国・小平市）】

| | | 有効回収率に 占める割合（％） | | 推計数 | | | |
|--------------|----------------------------------|--------------------|------|------------|-----------------|------|---------------|
| | | 全国 | 小平市 | 全国 | | 小平市 | |
| 狭義の ひきこもり | 普段は家にいるが、近所のコンビニ などには出かける | 0.74 | 0.12 | 23.6 万人 | 計 30.5 万人 | 35人 | 計 173 人 |
| | 自室から出るが、家から出ない・自 室からほとんど出ない | 0.36 | 0.47 | 11.5 万人 | | 138人 | |
| 準ひきこもり | 普段は家にいるが、自分の趣味に関 する用事の時だけ外出する | 0.95 | 0.58 | 30.3万人 | | 173人 | |
| 広義のひきこもり | | 2.05 | 1.17 | 65.3万人 | | 346人 | |

※市のひきこもり群の算出について（16歳から29歳で算出）

外出頻度から下記を除外したもので算出（推計数について、令和7（2025）年1月1日現在の16歳から29歳の人口29,573人で算出）

- ①経過期間が6カ月未満の者
- ②現在働いていますかに、正社員、契約社員、派遣社員、パート・アルバイト、自営業、専門職・技術職、専業主婦・主夫又は家事手伝いと回答した者
- ③自由な時間の過ごし方で「家事や家の仕事の手伝いをする」と回答した者
- ④外出頻度のきっかけで「その他」と回答した者

※国の算出方法（R4）（15歳から39歳で算出）

外出頻度から下記を除外したもので算出（総務省「人口推計」（2022年）15～39歳人口3,185万人から算出）

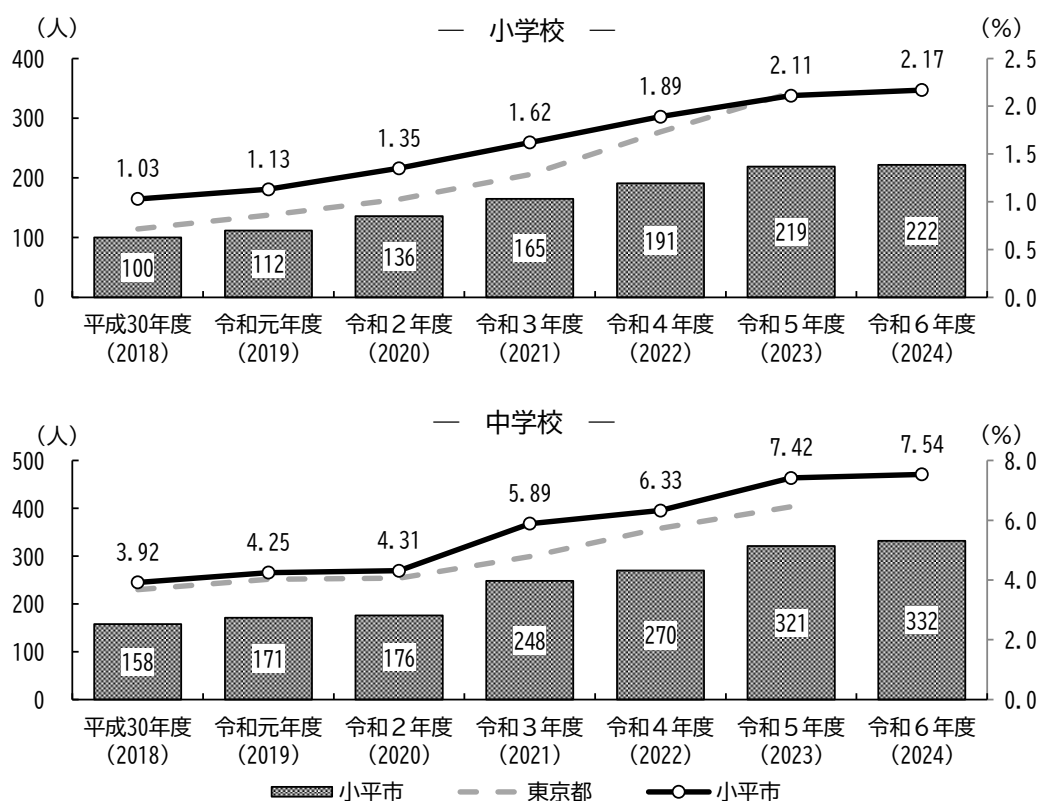
- ①経過期間が6カ月未満の者
- ②下記現在の外出頻度きっかけの者
妊娠した／介護・看護を担う／その他で、自宅で仕事をしているや出産、育児をしている／病気を選択肢し病名が統合失調症又は身体的な病気を記入したもの
- ③あなたは現在働いておられますかに、パート・アルバイト、派遣社員、契約社員・嘱託、正規の社員・職員・従業員、会社などの役員、自営業・自由業、家族従業者・内職、専業主婦・主夫又は家事手伝いと回答した者
- ④普段自宅にいるときによくしていることで「家事や育児」「介護・看護」「仕事」をすると回答した者

【資料：「若者の意識と生活に関する調査」（令和4（2022）年度、内閣府）／小平市こども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

(11) 不登校、いじめ

令和6（2024）年度の不登校児童生徒数は、小学校で222人（在席児童に占める割合2.17%）、中学校で332人（在席児童に占める割合7.54%）となっています。

【不登校児童生徒数及び在籍児童生徒に占める割合】



※不登校：年度間に連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒で、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者（ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く。）

【資料：指導課、児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査報告】

↑7/15 時点：東京都の令和6年度データなし（10月公表？）

いじめの認知件数は、小学校で 411 件、中学校で 153 件となっています。

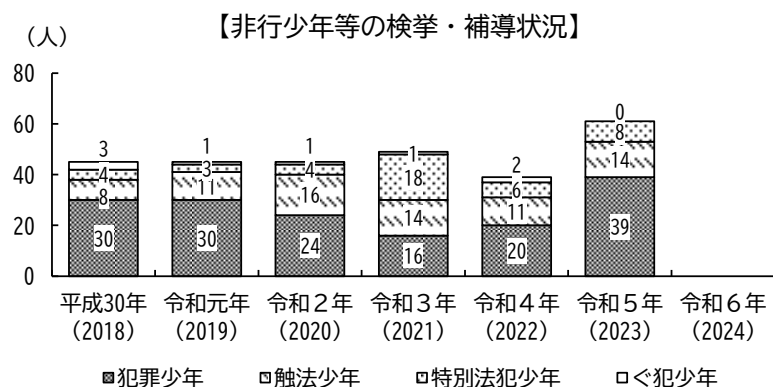
【いじめの認知件数】

| | 令和 3 年度 (2021) | 令和 4 年度 (2022) | 令和 5 年度 (2023) | (件) 令和 6 年度 (2024) |
|-----|----------------------|----------------------|----------------------|-----------------------------|
| 小学校 | 167 | 226 | 273 | 411 |
| 中学校 | 70 | 97 | 110 | 153 |

【資料：指導課】

(12) 非行

小平市内の非行少年等の検挙・補導状況は、おおむね横ばいですが、令和 5（2023）年は 61 人と増加しています。



【資料：警視庁の統計 ※グラフ内の数字は小平警察署の値】

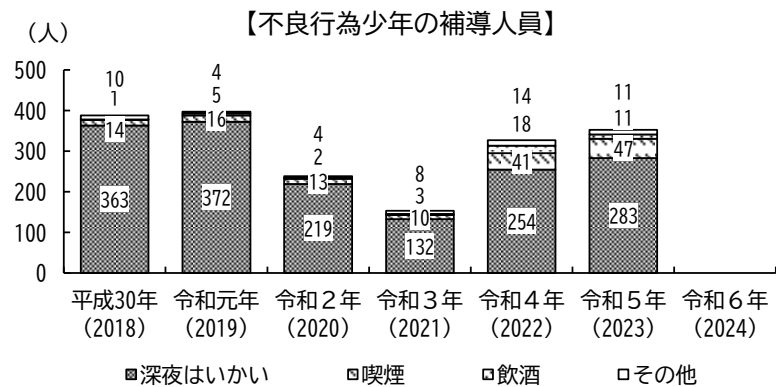
刑法犯少年：「刑法」に規定する罪を犯した犯罪少年（罪を犯した14歳以上20歳未満の少年）及び触法少年（刑罰法令に触れる行為をした14歳未満の少年）の総称。

特別法犯少年：特別法令（刑法犯以外の犯罪。覚せい剤取締法違反、売春防止法違反など）に違反する行為をした犯罪少年及び触法少年。

< 犯少年：保護者の正当な監督に服しない性癖があるなど一定の事由があって、その性格又は環境に照らして、将来、罪を犯し、又は刑罰法令に触れる行為をするおそれのある少年。

↑7/15 時点：小平市の最新データなし（11 月末公表？）

不良行為少年の補導人員も年々減少傾向にありましたが、令和4（2023）年から増加し、その9割以上を占めるのが深夜はいかいと喫煙です。

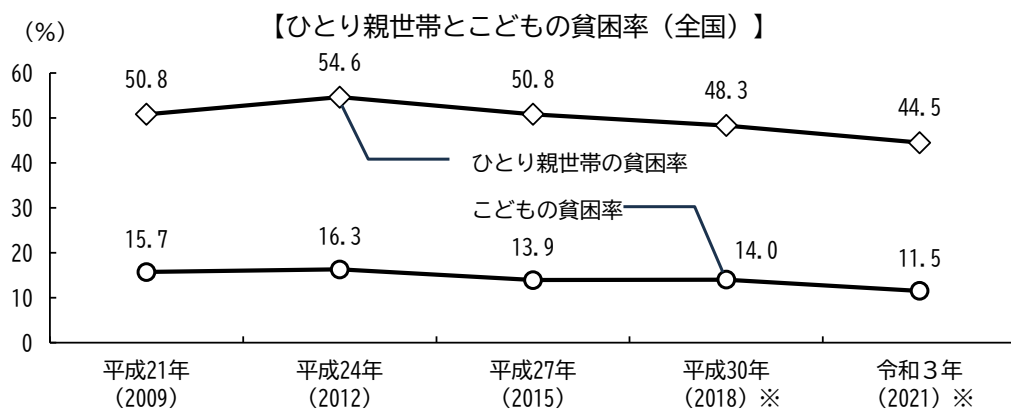


【資料：警視庁の統計 ※グラフ内の数字は小平警察署の値】

↑7/15 時点：小平市の最新データなし（11 月末公表？）

(13) こどもの貧困

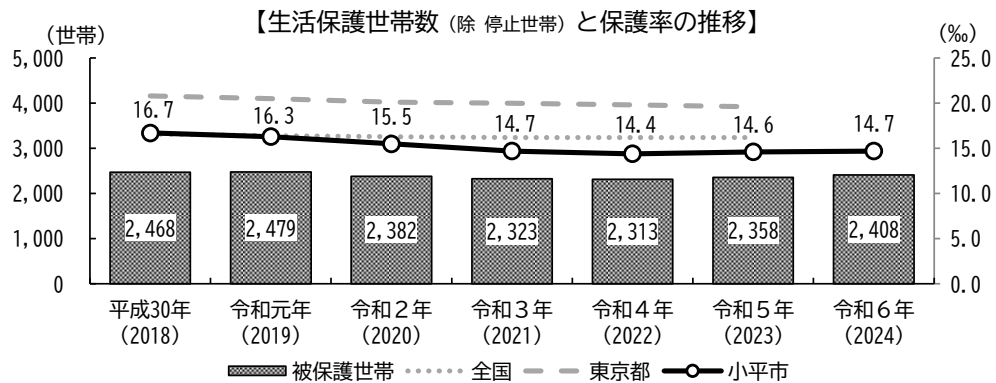
こどもの相対的貧困率は、国民生活基礎調査（厚生労働省）によると、平成24（2012）年の16.3%をピークに、平成27（2015）年に13.9%、平成30（2018）年に14.0%、令和3（2021）年に11.5%と減少傾向にありますが、未だにこどものおよそ9人に1人が貧困状態にあるという厳しい状況にあります。また、ひとり親世帯の貧困率は、令和3年に44.5%と引き続き高い水準となっており、ひとり親世帯の半数近くが貧困状態にあります。



【資料：国民生活基礎調査】

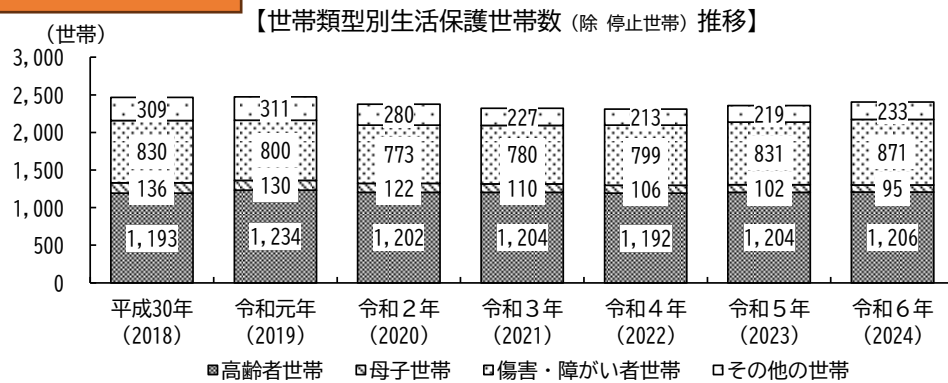
※平成30年以降の数値は、OECD の所得定義の新基準（可処分所得の算出に用いる拠出金の中に、新たに自動車税等及び企業年金を追加）に基づき算出

小平市の貧困の状況を表す参考指標として、生活保護の被保護世帯数及び保護率や就学援助を見ると、生活保護世帯数及び保護率に大きな変化はありません。また、就学援助の受給者数は、緩やかな減少傾向となっています。

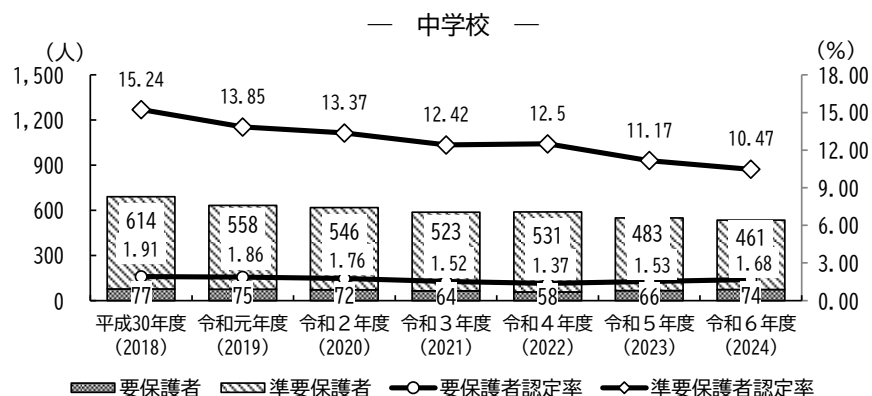
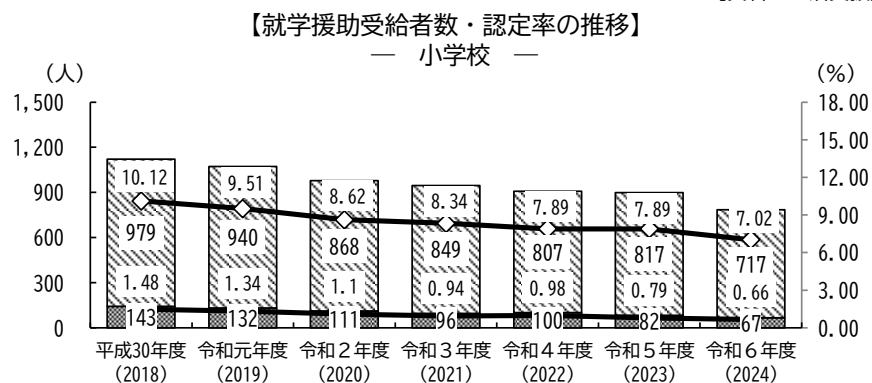


↑7/15 時点：全国と都の
令和6年データなし

【資料：生活支援課、福祉・衛生 統計年報、被保護者調査】
 ※小平市の被保護世帯数と保護率は停止世帯を含んで算出

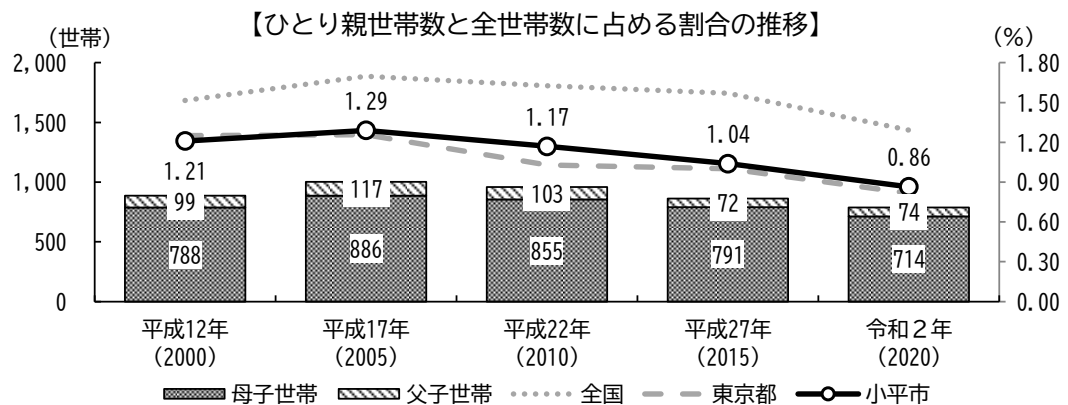


【資料：生活支援課】



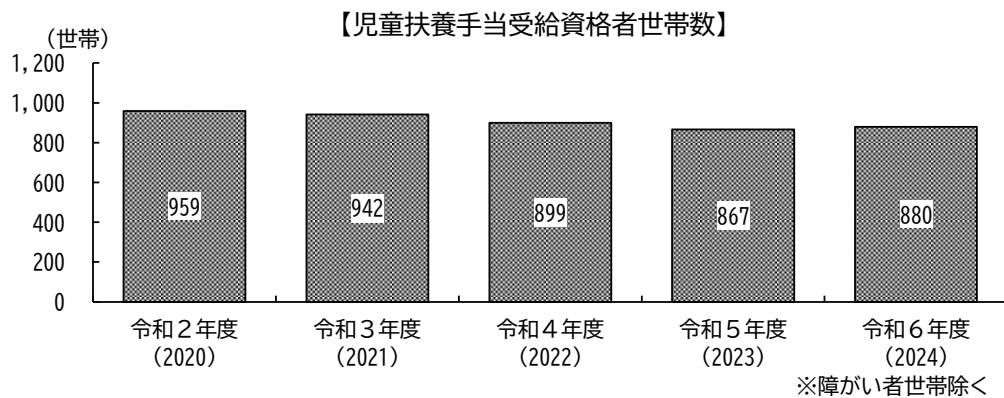
【資料：学務課】

令和2（2020）年の国勢調査によると、ひとり親世帯数が788世帯（母子世帯714世帯、父子世帯74世帯）となり、平成17（2005）年調査時より減少傾向にあります。世帯数に占める割合は、東京都とほぼ変わりませんが、全国と比較すると低くなっています。



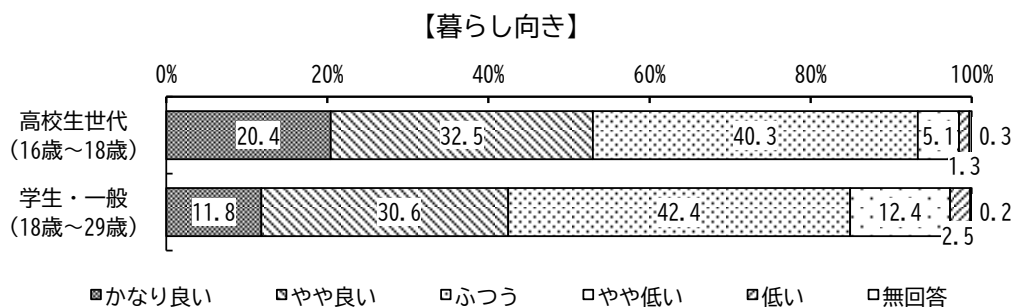
【資料：国勢調査】

国勢調査によるひとり親世帯には「三世帯同居」等は含まれないため、三世帯同居を含む児童扶養手当受給資格者世帯数を見ると、令和6（2024）年度に880世帯となっています。



【資料：子育て支援課】

「こども・若者の意識・実態調査」で家の暮らし向きを尋ねたところ、高校生年代では40.3%、18歳以上の若者では42.4%が「ふつう」と回答しています。また、「やや低い」または「低い」と回答した人は高校生年代で6.4%、18歳以上の若者で14.9%となっています。

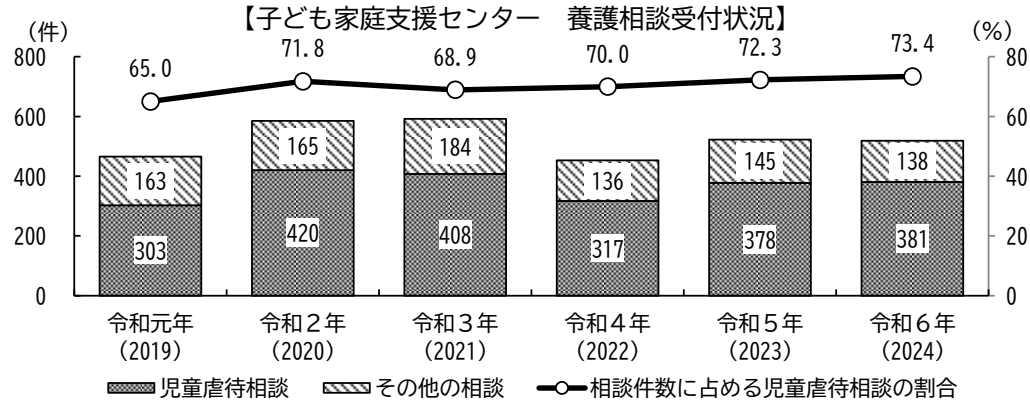


【資料：小平市こども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

(14) 児童虐待

小平市が対応した養護相談※の件数は、令和3（2021）年の592件を境にやや減少しましたが、令和5（2023）年以降は横ばいで推移しています。一方、児童虐待相談件数の割合は増加傾向にあります。養護相談の内容は、被虐待児や家庭環境が多くなっています。

※養護相談：父又は母等保護者の家出、失踪、死亡、離婚、入院、稼働及び服役等による養育困難児、棄児、迷子、虐待を受けたこども、親権を喪失した親の子、後見人を持たぬ児童等環境的問題を有するこども、養子縁組に関する相談。



【資料：こども家庭センター】

【子ども家庭支援センター 養護相談の内容】

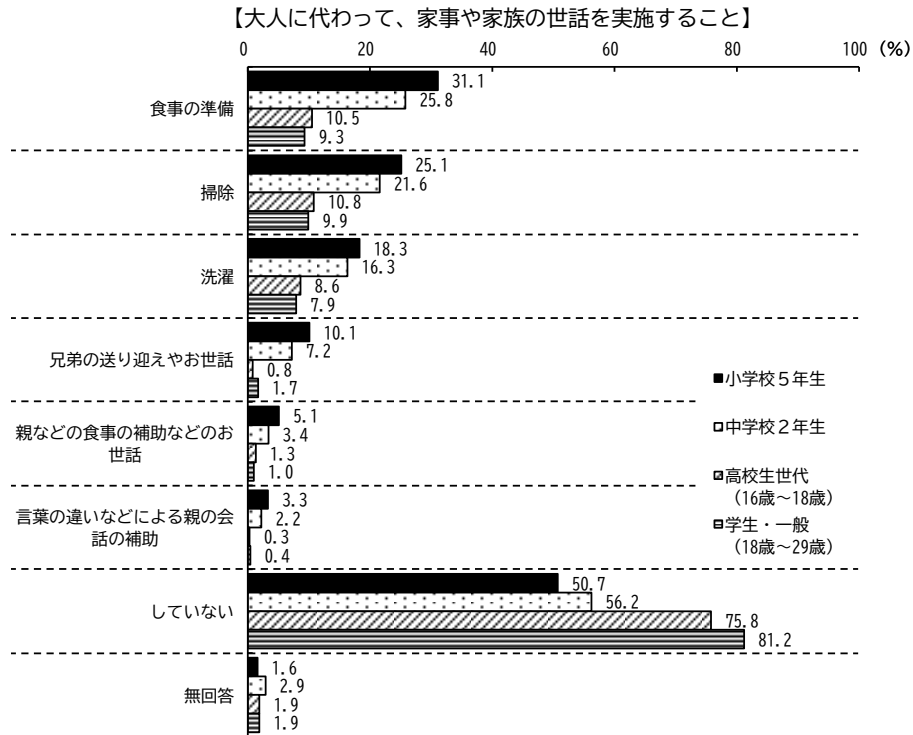
| | (件) | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|-----|----|------|------|----|----|----|----|----------|----------|-----|-----|-----|
| | 孤児 | 迷子 | 被虐待児 | 養育困難 | | | | | | | | | その他 |
| | | | | 家出 | 死亡 | 離婚 | 傷病 | 出産 | 拘置 拘留 | 家庭 環境 | その他 | 合計 | |
| 令和元年度 (2019) | 0 | 0 | 303 | 0 | 0 | 3 | 46 | 15 | 0 | 75 | 3 | 142 | 21 |
| 令和2年度 (2020) | 0 | 0 | 420 | 0 | 0 | 0 | 35 | 10 | 0 | 100 | 19 | 164 | 1 |
| 令和3年度 (2021) | 0 | 0 | 408 | 0 | 0 | 0 | 19 | 11 | 0 | 136 | 9 | 175 | 9 |
| 令和4年度 (2022) | 0 | 0 | 317 | 0 | 0 | 0 | 20 | 16 | 0 | 92 | 4 | 132 | 4 |
| 令和5年度 (2023) | 0 | 0 | 378 | | | | | | | | | | 0 |
| 令和6年度 (2024) | 0 | 0 | 381 | | | | | | | | | | 0 |

【資料：こども家庭センター】

↑7/15 時点：小平市の令和5・6年データなし

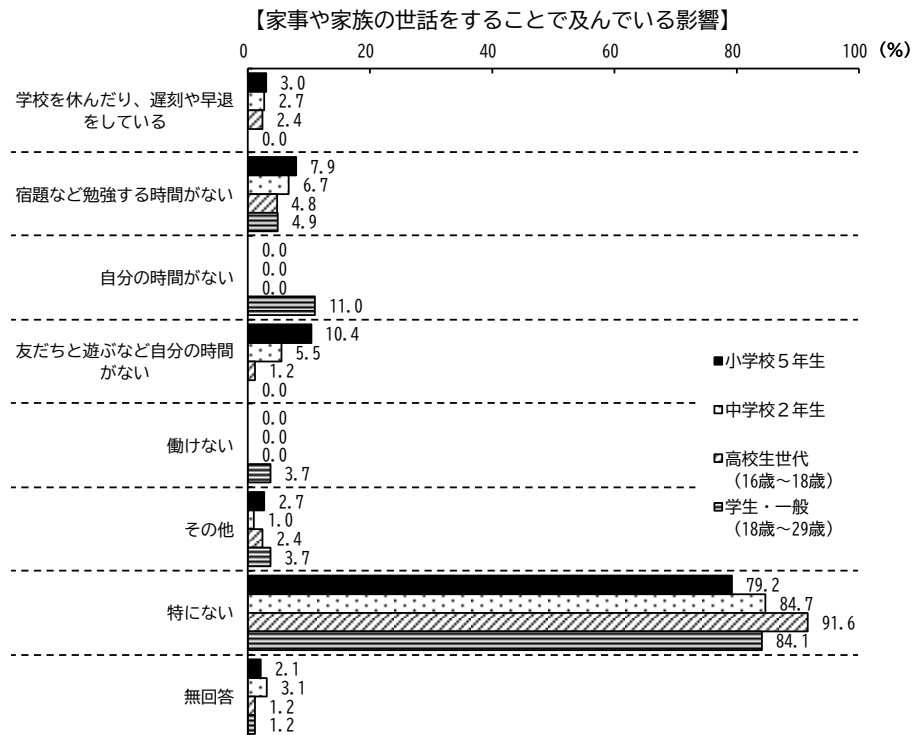
(15) ヤングケアラー

大人に代わって、家事や家族の世話を実施することは、「食事の準備」が小学校5年生では3割、中学校2年生では2割台半ばとなっています。高校生世代、18歳以上の若者では、「食事の準備」、「掃除」、「洗濯」がいずれも1割前後にとどまっています。



【資料：小平市こども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

家事や家族の世話することで及んでいる影響は、「友だちと遊ぶなど自分の時間がない」が小学校5年生では1割、18歳以上の若者では、「自分の時間がない」が1割となっています。

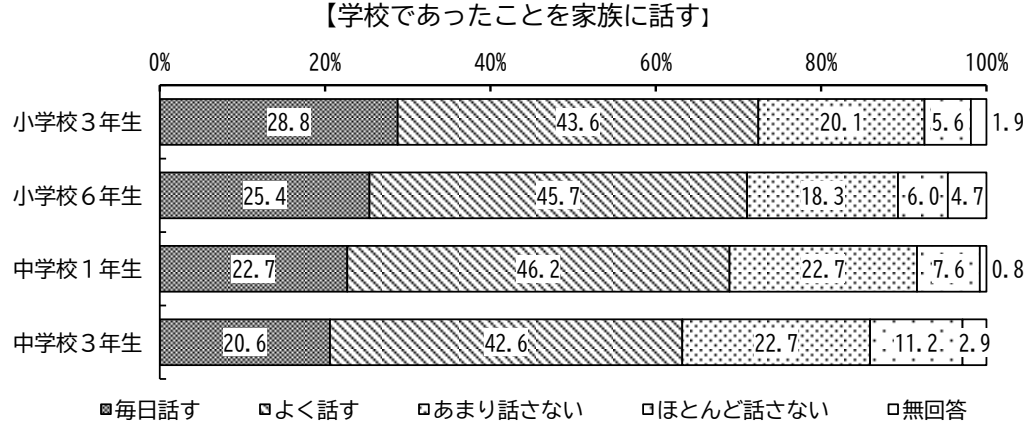


【資料：小平市こども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

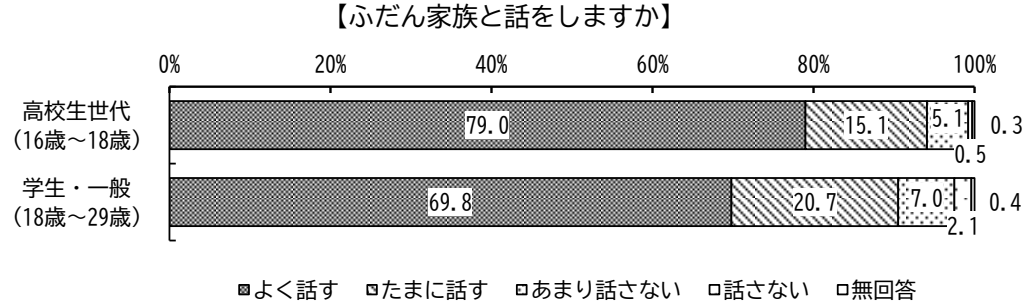
(16) 家庭・地域・社会環境

①家庭

家族とよく話す人の割合は6割以上となっていますが、学年が上がるほど少なくなる傾向にあります。

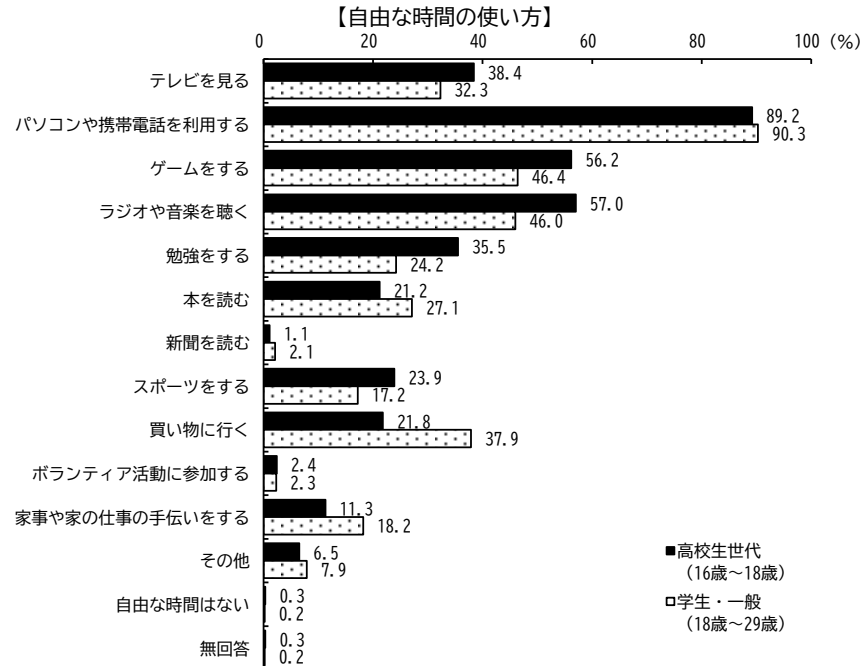


【資料：小平市の教育に関するアンケート調査（令和3（2021）年度）】



【資料：小平市子ども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

また、自由な時間の使い方では、「パソコンや携帯電話を利用する」が高校生年代で89.2%、18歳以上の若者で90.3%となっています。



【資料：小平市子ども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

(17) 地域

小・中学校では、放課後こども教室や放課後学習教室、学校支援ボランティアなど、地域の方たちの協力による活動が行われています。

【放課後こども教室の実施状況】

| | 平成 30年度 (2018) | 令和 元年度 (2019) | 令和 2年度 (2020) | 令和 3年度 (2021) | 令和 4年度 (2022) | 令和 5年度 (2023) | 令和 6年度 (2024) |
|--------|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 実施校数 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 | 19 |
| 回数 | 3,726 | 3,546 | 1,301 | 1,898 | 2,994 | 3,390 | 3,433 |
| 参加延べ人数 | 91,157 | 84,402 | 17,180 | 28,236 | 46,028 | 54,414 | 56,831 |

【資料：地域学習支援課】

【中学校放課後学習教室の実施状況】

| | 平成 30年度 (2018) | 令和 元年度 (2019) | 令和 2年度 (2020) | 令和 3年度 (2021) | 令和 4年度 (2022) | 令和 5年度 (2023) | 令和 6年度 (2024) |
|--------|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 実施校数 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 |
| 回数 | 597 | 585 | 215 | 262 | 308 | 281 | 294 |
| 参加延べ人数 | 6,878 | 7,047 | 6,269 | 6,501 | 6,571 | 5,181 | 3,946 |

【資料：地域学習支援課】

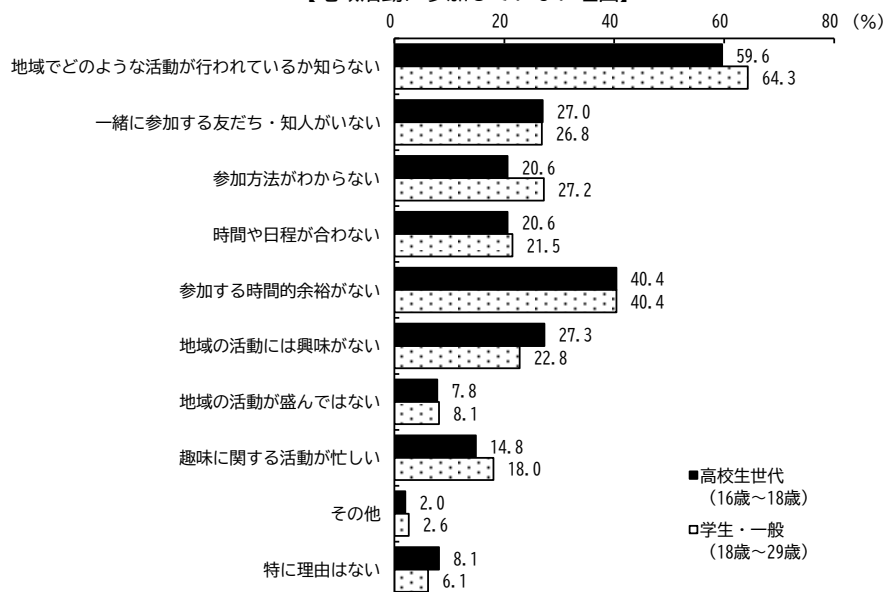
【学校支援ボランティアの活動状況】

| | 平成 30年度 (2018) | 令和 元年度 (2019) | 令和 2年度 (2020) | 令和 3年度 (2021) | 令和 4年度 (2022) | 令和 5年度 (2023) | 令和 6年度 (2024) |
|--------|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 活動延べ人数 | 30,351 | 25,318 | 13,394 | 13,340 | 7,113 | 9,674 | 8,481 |
| 活動延べ時間 | 41,398 | 35,836 | 17,999 | 15,638 | 10,277 | 12,786 | 9,965 |

【資料：地域学習支援課】

地域活動に参加していない割合は、高校生世代で 92.5%、18 歳以上の若者で 94.4% となっています。地域活動に参加していない理由として、「地域でどのような活動が行われているか知らない」が6割前後、「参加する時間的余裕がない」が4割となっています。

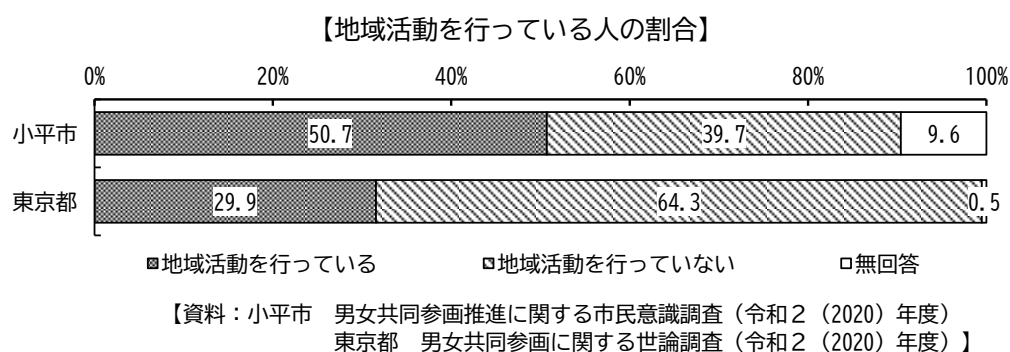
【地域活動に参加していない理由】



【資料：小平市こども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

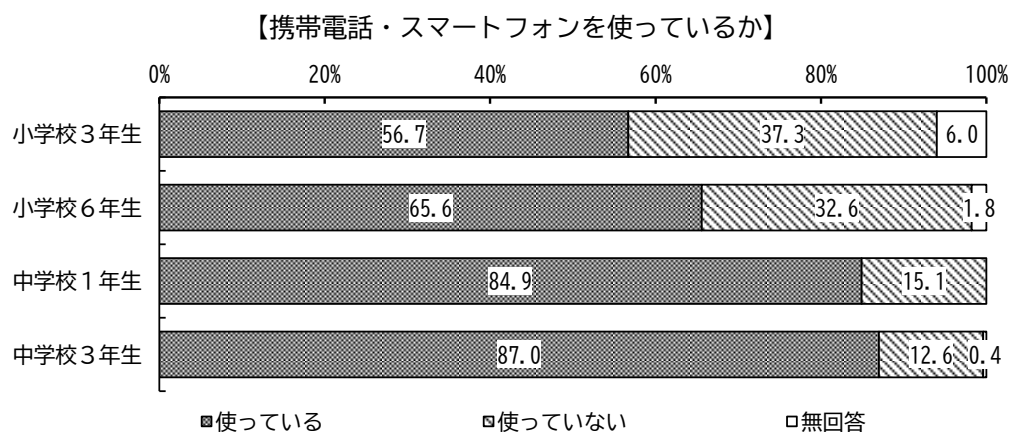
18 歳以上の大人が地域活動に参加している割合は、小平市で 50.7%、東京都で 29.9% となっています。

※調査票の聞き方が異なるため、参考程度の比較とします。



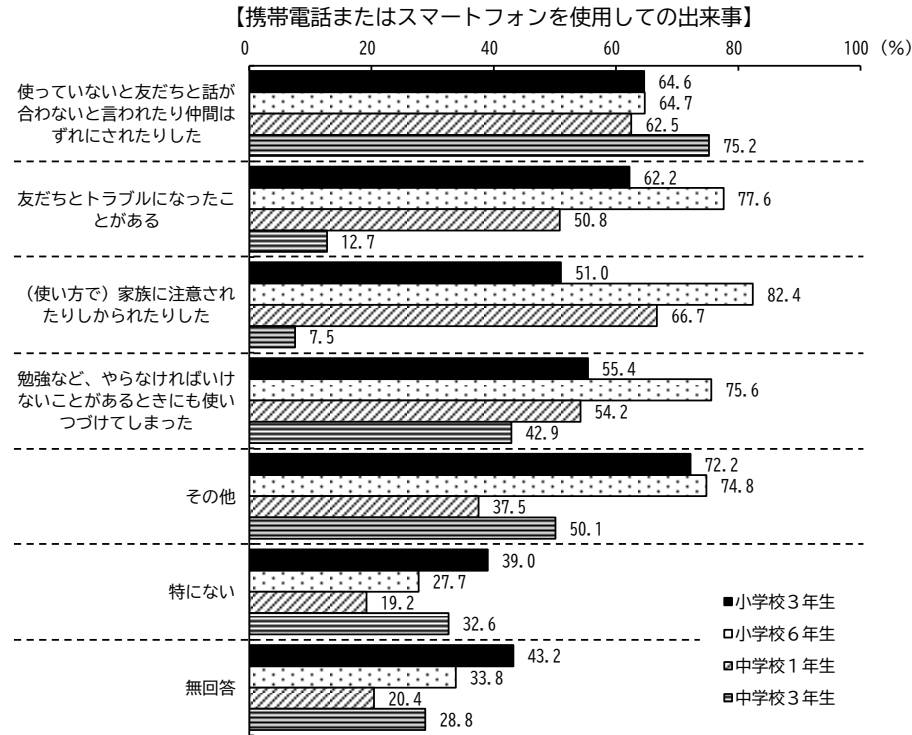
(18) 情報通信

携帯電話・スマートフォンの保有状況は、小学校 3 年生で 56.7%、小学校 6 年生で 65.6%、中学校以上になると 80%を超えており、携帯電話・スマートフォンの普及が進んでいることがわかります。



【資料：小平市の教育に関するアンケート調査（令和 3（2021）年度）】

また、小・中学生で、携帯電話またはスマートフォンを使っていないと仲間はずれにされたり、友だちとトラブルになったことがある割合が一定割合となっている。



【資料：小平市の教育に関するアンケート調査（令和3（2021）年度）】

（19）防犯

令和6（2024）年度中の小平市内の不審者情報は34件となっています。また、「こども110番のいえ」は、1,638か所となっています。

【防災・防犯緊急情報メールマガジンの配信状況】

| | 平成 30年度 (2018) | 令和 元年度 (2019) | 令和 2年度 (2020) | 令和 3年度 (2021) | 令和 4年度 (2022) | 令和 5年度 (2023) | 令和 6年度 (2024) |
|--------|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 声かけ | 1 | 25 | 24 | 9 | 8 | 6 | 27 |
| 公然わいせつ | 4 | 20 | 8 | 8 | 8 | 11 | 7 |
| 合計 | 5 | 45 | 32 | 17 | 16 | 17 | 34 |

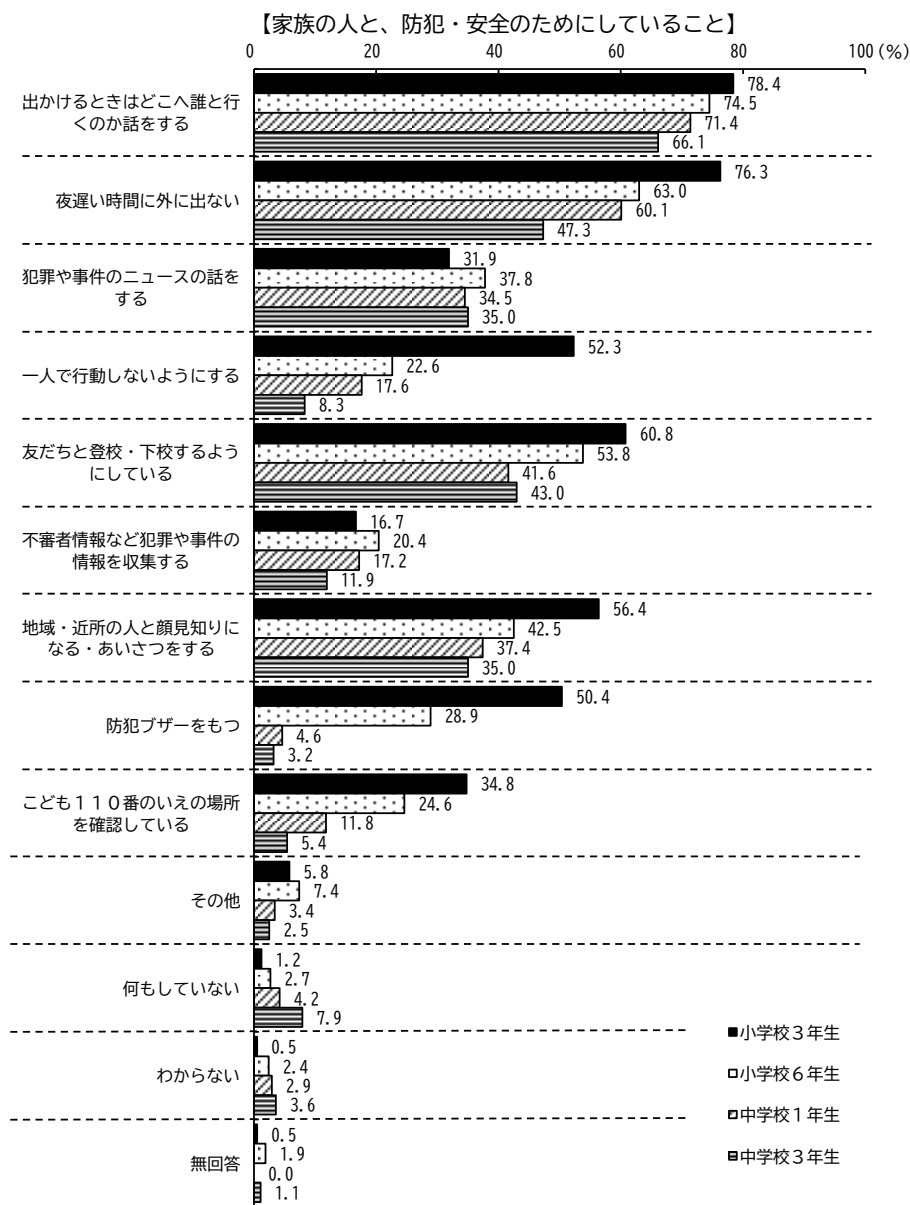
【資料：地域安全課】

【こども110番のいえの推移】

| | 平成 30年度 (2018) | 令和 元年度 (2019) | 令和 2年度 (2020) | 令和 3年度 (2021) | 令和 4年度 (2022) | 令和 5年度 (2023) | 令和 6年度 (2024) |
|------------|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 家庭、商店、事業所等 | 1,734 | 1,736 | 1,697 | 1,623 | 1,618 | 1,641 | 1,638 |

【資料：地域安全課】

家族の人と防犯・安全のためにしていることを尋ねると、全学年で「出かけるときはどこへ誰といくのか話をする」が最も多く、次いで「夜遅い時間に外に出ない」となっています。小学校3年生では、「一人で行動しないようにする」、「防犯ブザーをもつ」が5割となっていますが、中学生では「一人で行動しないようにする」が2割、「防犯ブザーをもつ」が1割に満たない状況です。中学校3年生では、防犯・安全のために何もしていない人が7.9%となっています。



【資料：小平市の教育に関するアンケート調査（令和3（2021）年度）】

(20) 各相談窓口等における相談状況

小平市では、様々な窓口で相談を受けています。子育てに関する相談で、中心的な役割を果たす子ども家庭支援センターには、令和6年度に6,632件の相談が寄せられています。子育て交流ひろばには375件、中学校1年生から19歳の若者を対象としたティーンズ相談室には、令和6年度に1,310件の相談が寄せられています。また、経済的に困っている方を対象とした相談窓口であるこだいら生活相談支援センターへの相談は660件あり、そのうち若者からの相談件数は、20代までが98件、30代が65件となっています。教育に関する相談窓口である教育相談室には、面談311件、電話685件の相談が寄せられています。

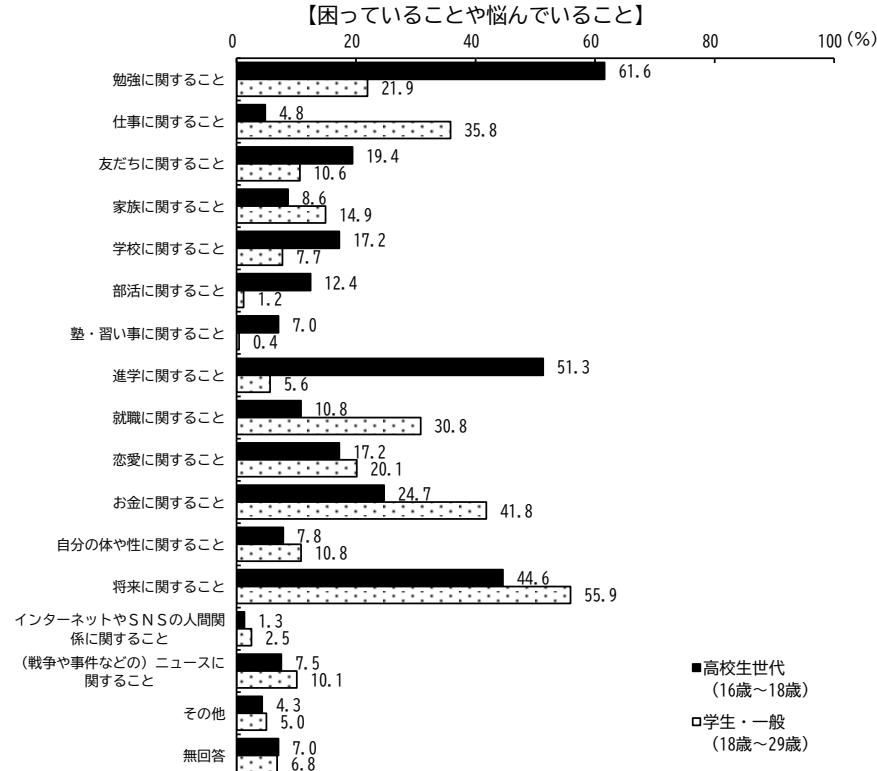
【各相談窓口 相談件数の推移】

| | | (件) | | | | | | |
|------------------------|-------------|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| | | 平成 30年度 (2018) | 令和 元年度 (2019) | 令和 2年度 (2020) | 令和 3年度 (2021) | 令和 4年度 (2022) | 令和 5年度 (2023) | 令和 6年度 (2024) |
| 子ども 家庭支援 センター | 合 計 | 4,137 | 4,678 | 6,243 | 7,351 | 6,267 | 6,297 | 6,632 |
| | 内訳) 虐待関係 | 1,463 | 2,008 | 3,416 | 4,209 | 2,990 | 2,967 | 3,341 |
| | 家庭・生活環境 | 1,282 | 1,257 | 1,639 | 1,861 | 1,637 | 1,854 | 1,726 |
| | その他(育児・発育等) | 1,392 | 1,413 | 1,188 | 1,281 | 1,640 | 1,476 | 1,565 |
| 子育て交流ひろば | 来所・電話 | 346 | 231 | 138 | 199 | 330 | 244 | 375 |
| ティーンズ 相談室 | 電話・メール・面談 | 618 | 950 | 802 | 1,006 | 1,122 | 1,529 | 1,310 |
| こだいら 生活相談 支援センター | 来所・電話 | 379 | 385 | 1,797 | 993 | 751 | 635 | 660 |
| | 内訳) ~20代 | 35 | 46 | 150 | 82 | 93 | 74 | 98 |
| | 30代 | 29 | 50 | 113 | 54 | 63 | 70 | 65 |
| 教育相談室 | 面 談 | 336 | 323 | 341 | 360 | 387 | 339 | 311 |
| | 電 話 | 616 | 631 | 540 | 678 | 1,052 | 1,204 | 685 |

【資料：こども家庭センター、子育て支援課、ティーンズ相談室、生活支援課、指導課】

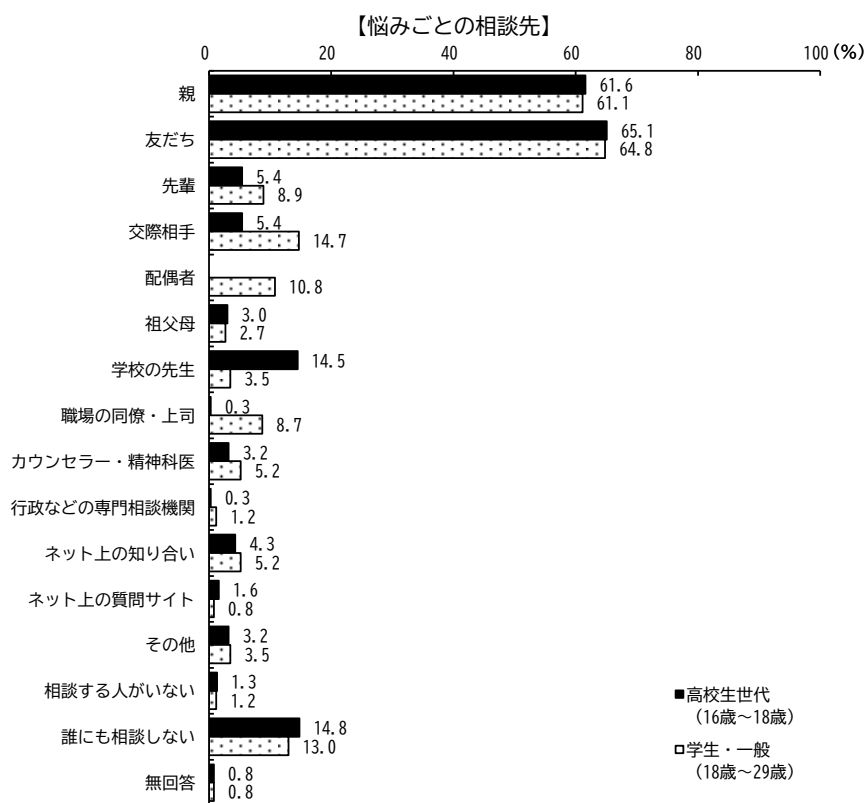
※こだいら生活相談支援センターの来所・電話件数に、令和6年度はメール・訪問の対応を含む

こども・若者に困っていることや悩んでいることを尋ねたところ、高校生年代では勉強や進学に関することが多く、18歳以上の若者は将来やお金、仕事関係に関することが多くなっています。



【資料：小平市こども・若者の意識・実態調査(令和6(2024)年度)】

また、悩みや不安の相談先は、親と友だちが6割と多くなっていますが、誰にも相談しない割合も1割超となっています。

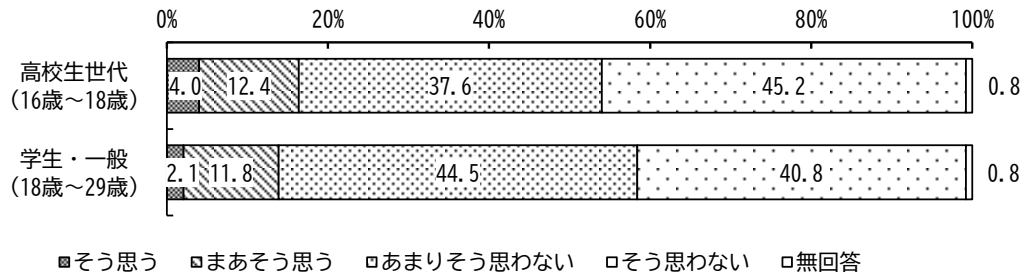


【資料：小平市こども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

(21) 小平市の青少年施策に求めること

自分の考えを市の制度や取組に伝えることができていると思う人の割合は、1割程度にとどまっています。

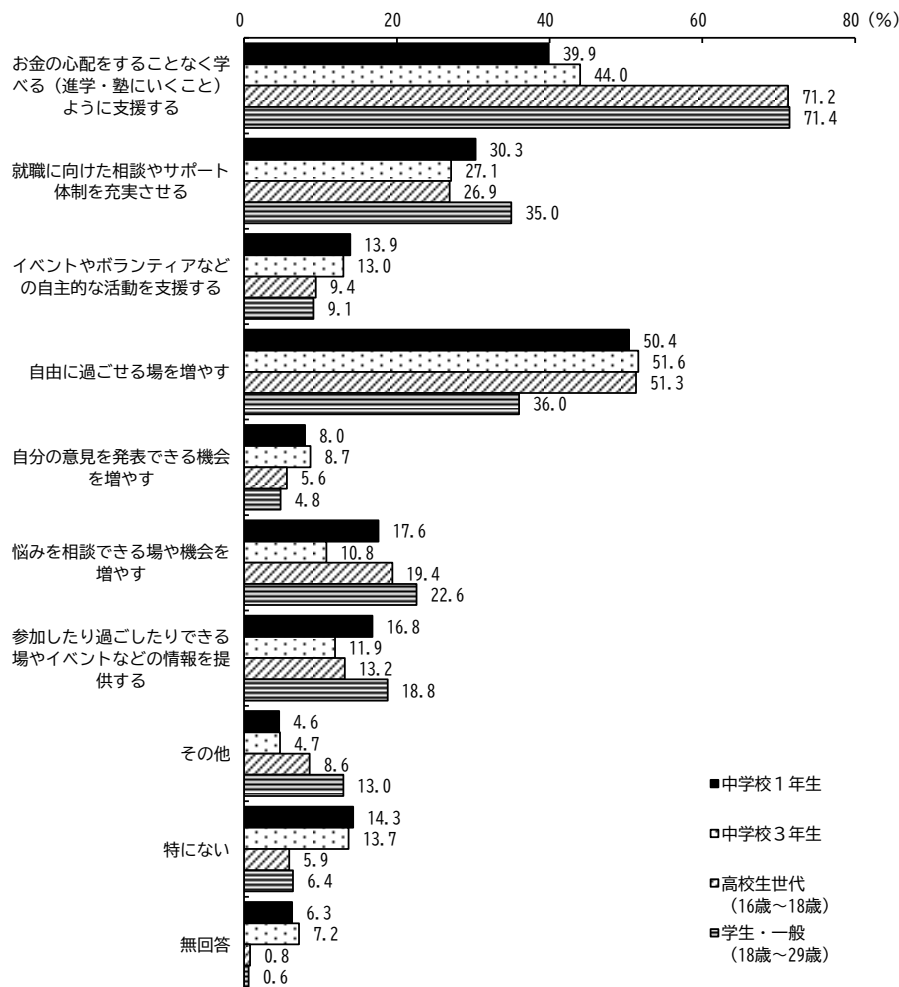
【自分の考えを市の制度や取組に伝えること】



【資料：小平市こども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

小平市の青少年施策に求めることは、「お金の心配をすることなく学べる（進学・塾にいくこと）ように支援する」が高校生世代、18歳以上の若者で7割と多くなっています。また、「自由に過ごせる場を増やす」は中学校1年生で50.4%、中学校3年生で51.6%、高校生世代で51.3%と多くなっていますが、18歳以上の若者で36.0%と少なくなっています。

【若者のために小平市に必要な取組】



【資料：小平市の教育に関するアンケート調査（令和3（2021）年度）／小平市こども・若者の意識・実態調査（令和6（2024）年度）】

2 こども・若者、子育て当事者からの意見

こども・若者の意識・実態調査以外に、本計画策定のための基礎資料とするため、こどもや若者から意見聴取（グループワーク等）しました。

(1) 【小学生】令和6年度第2回市民と市長のタウンミーティング

| | | | |
|-----|--------------|------|-----------|
| 日にち | 令和6年9月18日（水） | 場 所 | 小川町二丁目児童館 |
| 対象者 | 児童館利用児童 29人 | 実施形態 | 対面 |

児童館にWi-Fi・パソコン・充電スペースを設置してほしい、マンガ・本を増やしてほしい、遊ぶものを新しくしてほしい、跳び箱（体操器具）を増やしてほしい、学校に自動販売機が欲しい、駅に無料の自転車駐車場がほしい、サッカーボールを使える公園やグラウンドを増やしてほしい。

(2) 【中学生】小平第四中学校生徒会の皆さんの意見を聴く場

普段思っていること・感じていることを教えて！！

| | | | |
|------|-----------------|-----|---------|
| 日にち | 令和7年1月14日（火） | 場 所 | 小平第四中学校 |
| 対象者 | 小平第四中学校生徒会の生徒7人 | | |
| 実施形態 | 2つに分かれてグループワーク | | |

○小平市の良いところ、良くないところ

- ・小平市の良いところは、自然が多く残っているところ。公園、図書館など、こどもが安心して過ごせる場所があるところ。学校の給食がおいしいところ。
- ・小平市の良くないところは、遊具が撤去されてしまい、何もなくなってしまった公園があるところ。ボール遊びができる場所が少なくなってしまった。
通学路に古くなった空き家があって不安。

○普段人と話をしていやだなと思うことってどんなこと？

- ・大人数でいるときに声が大きい人の意見が通りやすい。先に言ったもの勝ちという時がある。自分の意見が反映されない。発言するのが怖い雰囲気があることも。
- ・相手が自分を下げた話の仕方「自分は頭が悪いから…」。自分よりテストの点数がいい場合や、自信がない、自己肯定感が低いなどがある。相手を敬って謙遜していることもある。自分と人を比べている。
- ・容姿や家柄など、「5秒以内に変わられない」ことを言われること。

(3) 【高校生】 都立小平西高等学校生徒会の皆さんの意見を聴く場

普段思っていること・感じていることを教えて！！

| | | | |
|------|-------------------|-----|-----------|
| 日にち | 令和7年2月17日（月） | 場 所 | 都立小平西高等学校 |
| 対象者 | 都立小平西高等学校生徒会の生徒9人 | | |
| 実施形態 | 2つに分かれてグループワーク | | |

○小平市の良いところ、良くないところ

- ・小平市の良いところは、人が多すぎなくて、あったかい感じ。都心へのアクセスがよい、急行が停まる、バスが多い。自然や大学が多い、住みやすい、ホームページがわかりやすいところ、ルネこだいらのような施設が合唱コンクールで使えるのは貴重。
- ・小平市の良くないところは、若者向け施設が少ない、施設の老朽化、買い物をする場所が少ない。夜になると道が暗い、遅くまで使用できる自習室がほしい。

○普段人と話をしている嫌だなと思うことってどんなこと？

- ・否定ばかりしてくる、自己主張が強すぎる。自分の意見ばかり言うてくる。反応してくれない。グループで話をしているときに自分のことを下げる発言をしてくる。

(4) 【大学生】 武蔵野美術大学「市の課題に関する報告会」

| | | | |
|------|-----------------------------|-----|---------|
| 日にち | 令和6年11月～12月 | 場 所 | 武蔵野美術大学 |
| 実施形態 | 授業演習 | | |
| 対象者 | 武蔵野美術大学クリエイティブイノベーション学科学生5名 | | |

- ・学生と市職員が共に話す場があり、さらにラジオを通じて色々な人がその話を聞ける場があると意見を言いやすい。
- ・他大学との学生の交流や、市職員と話し合うことにより、新たな視点に気が付くことができ、市への関心をより高めると同時に、自分の意見が言いやすくなる。また、意見がじかに伝わり、意見が反映されやすくなるメリットもある。

(5) 【大学生年代】 二十歳のつどい実行委員会委員向けアンケート

| | | | |
|-----|-------------------|------|-----------|
| 日にち | 令和7年1月29日～2月7日 | | |
| 対象者 | 二十歳のつどい実行委員会委員の4人 | 実施形態 | Web アンケート |

実行委員として小平市の行事を企画・運営してみて、感じたことを選ぶ設問で、「自分の意見が反映されてうれしかった、やりがいがあった」「今後も市に対して自分の意見が伝える機会があれば参加したい」「自信がついた」「自分のことを以前よりも好きになった」については、全員が「そう思う」「まあそう思う」と回答した。また、「小平市や小平市民の役に立った」については、全員が「そう思う」と回答した。「今後も市に自分の意見を伝えるときは、どのような手段なら伝えやすいですか」の設問に対し、一番多かったのが「様々な人と意見交換（ワークショップなど）しながら伝える」と「アンケートに答える」で、次に多かったのが「LINE や SNS などのオンラインで伝える」であった。

(6) 【妊婦】妊婦面談対象者向けアンケート

| | | | |
|-----|----------------|------|-----------|
| 日にち | 令和6年11月～令和7年1月 | | |
| 対象者 | 妊婦面談参加者 | 実施形態 | Web アンケート |

- ・妊娠・出産に関して必要な情報は

「妊娠・出産に関すること」(74%)、「保育園幼稚園、一時保育などの預け先」(50%)、「出産・分娩に関すること」「お金のこと」「産休・育休など子育てを支援してくれる制度」(33%)

- ・子どもは何人ほしいか

「2人」(62%)、3人以上(31%)、「1人」(5%)

- ・現実的には何人産み育てることができますか

「2人」(62%)、「1人」(21%)、「3人」(14%)

- ・希望と現実ギャップがあるとしたら、それはなぜですか

「子育てや教育にお金がかかるから」(52%)、「高年齢になってしまうから」(40%)、「育児の精神的・肉体的負担が大きいから」(28%)

(7) 【子育て世代】令和6年度小川西町公民館事業企画委員企画

子育て支援講座第1回目

| | | | |
|------|--|-----|---------|
| 日にち | 令和6年5月17日(金) | 場 所 | 小川西町公民館 |
| 対象者 | 子育て世代・子育てに関連のある方 15人 | | |
| 実施形態 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義：こども・若者計画、(仮称)小平市こども計画に関する講義 ・グループワーク：テーマ「幸せだと日々感じる生活とは」 | | |

グループワーク：「幸せだと日々感じる生活」とは

- ・親が幸せであることがこどもの幸せにつながる。そのためには経済的、精神的に余裕のある生活が必要で、家庭が安心して過ごせる場所であること、経済的不安がなく食事が満足にとれること、家事や育児の分担やこどもを預ける場所があること、困ったときの支援に関する情報提供等が重要。
- ・こどもの環境：学校で安心して過ごせ、いじめがなく、個性にあった環境があること。また、本音で何でも話せる相手がいて、睡眠時間がきちんととれて、疲れをとることも大切である。
- ・コミュニケーション：親子間のコミュニケーションや、親の社会的な交流が重要。あいさつをする、一緒にご飯をおいしく食べる、こどもとの会話がある、近所の方との交流がある、対話の場、相談窓口が必要である。
- ・余暇時間(親)：家事・育児が終わってのんびりする時間があること、旅行や飲み会などに自由に行ける時間があることも大切である。親子でのんびり遊びたい。

(8) 【子育て世代】ニュースポーツデー参加者向けアンケート

| | | | |
|-----|-------------------|------|-----------|
| 日にち | 令和6年9月8日（日） | | |
| 場 所 | 市民総合体育館・中央公園内球技広場 | | |
| 対象者 | 保護者（子育て世代）等 15 人 | 実施形態 | Web アンケート |

- ・「あなたが今、子育てに関して楽しいと感じていることを教えてください。」
こどもの成長につれ、会話が高度になってきていることや、できることが増えてきている。
- ・子育て環境への意見
乳幼児～小学生の楽しめる場所、環境(今回のイベントのようなもの)をもっと増やしてほしい、ルネのホールで「誰でも、赤ちゃん連れもウェルカムな」ランチタイムコンサートを月1で開いてほしい。

2 小平市子ども・若者計画の総括と課題

小平市子ども・若者計画では、平成 22（2010）年 4 月施行の「子ども・若者育成支援推進法」第 9 条第 2 項に基づくとともに、「小平市第三次長期総合計画基本構想」における青少年育成部門の計画である「第 2 次小平市青少年育成プラン」を引き継ぐものとして、小平市の子ども・若者育成支援施策の方向性を示し、取組を進めてきました。子ども・若者は、未来を担う貴重な存在であり、まちに活力と希望を与える存在であること、大人の役割は、子ども・若者が未来に夢と希望を持てるまちをつくることであり、そのようなまちを地域で力を合わせてつくることを目指し、基本理念に「子ども・若者が夢と希望をもって、自分らしく自立し躍動できるこだいら をめざして」を掲げました。

こだいらこども若者みらいプランの策定にあたり、小平市子ども・若者計画における施策の総括を行うとともに、意識・実態調査の結果も踏まえ、方向性や課題を整理しました。

基本目標 1 子ども・若者自身の力を伸ばし、自信と希望をもって社会を生き抜く力を育てます

【振り返り】

- ・中学生・高校生が参加するティーンズ委員会で「ティーンズ委員会大賞」の本を中学生・高校生の目線で選び、その結果を同年代に届くようポスターで全図書館に掲示したほか、ティーンズコーナーで大賞の図書を展示し、こども・若者自身が主体的に学ぶ機会を充実させました。（No. 4）
- ・児童館で、次代の親である中学生・高校生と乳幼児親子とのふれあい体験事業を実施しましたが、コロナ禍で実施できない年があったほか、中学生・高校生と乳幼児親子の予定が合わず、参加者が伸びない年もありました。（No. 10）
- ・小学校における模擬投票授業の実施校を増やしたほか、中学校における生徒会選挙等の立会演説時を利用し、生徒に対し選挙ワンポイント講座を開催しました。また、都立小平高等学校においては、嘉悦大学教授と大学生の協力を得て、毎年 1 年生を対象に模擬投票授業を行い、社会参加、参画機会の充実を図りました。（No. 22）
- ・出張こども広場の実施箇所数の増設や、日曜日の開催などで利便性の向上を図り、気軽に安心して遊んだり過ごしたりできる居場所づくりを推進しました。（No. 26）

【課題】

- ・図書館において、中高生が優先的に利用できるティーンズコーナーの認知度を向上させ、利用がさらに増えるよう、より一層の広報活動が必要です。
- ・不登校の児童・生徒が増加する中、学校・地域との連携を図っていますが、学校以外における児童・生徒の居場所に対するニーズが増加・多様化しています。
- ・共働き世帯が増加する中、小学校始業前や放課後の居場所に対するニーズが増加しており、対策が求められています。

基本目標2 子ども・若者がチャレンジできる環境を整備します

【振り返り】

- ・大学生の意見を参考にしながらこども・若者に関する情報を幅広く収集した若者応援ガイドブックを作成し、中学生・高校生に配布し、情報提供を行いました。(No.39)
- ・必要な情報がこども・若者に届くよう、若者向けの支援や悩み別の相談機関などの情報をまとめたサイトを市ホームページ上に開設しました。(No.40)

【課題】

- ・若者が必要としている情報を的確に把握するとともに効果的に情報が届くよう、情報発信手段等の更なる工夫が必要です。

基本目標3 子ども・若者に直接届く支援をします

【振り返り】

- ・中学校1年生から19歳の若者を対象としたティーンズ相談室では、人間関係や進路等、生活上困っていることについて電話・メール・面談で相談支援を行うとともに、必要に応じて関係機関への同行支援を行いました。(No.41)
- ・子ども家庭支援センターでは、講座の開催を通じた情報提供を行うとともに、子育て交流ひろばの運営や、こどもと家庭に関するさまざまな相談に応じました。(No.43)
- ・経済的な事情等により、学習塾などに通えない生活困窮世帯やひとり親家庭の小学校6年生・中学生・高校生を対象に集合型・派遣型で学習支援を実施し、家庭の経済状況やそのほか困難な状況に関わらない学習環境の充実に努めました。また、学習以外の児童・生徒の個別の相談にも応じました。(No.50、51)
- ・教育相談室やあゆみ教室、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどによる児童・生徒に対する相談等の支援体制を継続してきました。(No.57、58、59)

【課題】

- ・ティーンズ相談室だけでは不登校や居場所、進学・就職等の相談ニーズに応えることが困難なため、支援のつなぎ先を開拓し、ニーズに応じた選択肢の幅を広げる必要があります。
- ・子ども家庭支援センターへの相談件数は、コロナ禍に急増して以降、高止まりしており、養護相談に占める児童虐待相談の割合は増加傾向にあります。子育てに困難を感じる家庭やこどもからのSOSを周囲や身近な地域が早期に把握し、気づきの段階から予防的支援等対応の充実強化を図る必要があります。
- ・ヤングケアラーに関する周知・啓発や、家庭状況等に応じた支援体制の構築が求められています。
- ・「小平市こども・若者の意識・実態調査」では、家の暮らし向きが「低い」と回答した人が一定数見受けられ、経済的な不安を抱えるこども・若者が依然として存在していることがうかがえます。経済的な困難によりこどもの貧困が連鎖することがないよう、一人ひとりの状況や個性に応じた包括的な支援が求められています。

基本目標4 子ども・若者を支える家庭を支援します

【振り返り】

- ・各公民館で、子育て中の親を対象として育児に関する不安や、孤立の解消、仲間づくりの機会の提供等を目的とした子育て支援講座を保育付きで実施しました。(No.75)
- ・こだいら生活相談支援センターと生活支援課が連携し、住居の確保や就労に向けた支援を実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、支給要件の緩和を行った期間もありました。(No.82)

【課題】

- ・講座を通して出会った子育て仲間とのつながりをその後も継続できるよう、工夫を検討する必要があります。
- ・母子・父子福祉資金貸付や女性福祉資金貸付については、必要な方に情報が届くように、引き続き周知に努めていく必要があります。

基本目標5 子ども・若者の成長を支える地域とその担い手が育つ環境を整備します

【振り返り】

- ・1人1台の学習者用端末の活用に向け、小平市立学校における情報活用能力の育成方針を見直しました。すべての小・中学校において、発達段階に応じて、情報モラル及び情報セキュリティの指導を年間を通じて実施しました。(No.106)
- ・民生委員児童委員や青少年委員、青少年対策地区委員の地域に密着した活動や、住民からの様々な相談にのり、関係機関へのつなぎ役としての活動を支援するとともに、活動しやすい環境づくりに努めました。(No.109、110、111)

【課題】

- ・子ども・若者を取り巻く環境は、インターネットの普及に伴い、SNSを媒介とした犯罪被害やトラブルが増加するなど、日々大きく変化しているため、社会環境の変化に対応した柔軟な対応が求められています。
- ・地域で活躍する人材の高齢化や担い手不足が課題であり、コロナ禍での活動制限が拍車をかけました。共働き世帯の増加や地域のつながりの希薄化により、より一層の人材確保が課題となっています。
- ・「小平市子ども・若者の意識・実態調査」では、地域活動に参加していない割合が9割以上と多く、その背景には、情報不足に加えて、活動のイメージが持てない、時間的余裕がない、関心を持ってないといった複合的な要因があると考えられます。若者が気軽に参加しやすい仕組みづくりや、興味を引く活動内容の工夫など、若者と地域をつなぐためにさまざまな取組を推進していくことが重要です。



子どもの権利条約

世界中、すべてのこどもが持つ^{きほんてきじんけん}基本的人権を定めた条約だよ。平成元（1989）年11月20日の国連総会^{そうかい さいたく}で採択されたんだ。日本は平成6（1994）年4月に批准^{ひしゅん}したよ。批准とは、『子どもの権利条約』で定められているこどもたちの権利を守ります」とやくそくしたということなんだ。

この条約に書いてあることが実現^{じつげん}するように、国やすべての人が一緒に^{いっしょ}取り組んでいくことが大事なんだよ。

■子どもの権利条約の4つの原則

1

差別の禁止^{きんし}



こどもは本人や親の人種、国籍、性別、政治の意見、障がい、宗教、経済状況など、どんな理由があっても差別されないんだよ。

- ☐ 男の子だから、女の子だからと決めつけられないことがない
- ☐ 心や体に障がいがあっても、社会に参加し十分な生活を送ることができる

2

こどもの最善の利益^{さいぜん りえき}

こどもに関することが決められるときや何かをするときは、「こどもにとって一番よいことはなにか」をいつも考えないといけないんだよ。

- ☐ 大人が勝手に決めるのではなく、自分にとって一番何が良いか考えてもらえる
- ☐ だれからも幸せをうばわれない

3

生命、生存および発達に対する権利^{せいぞん}

こどもの命は守られ、成長できる権利があるんだ。こどもはお医者さんにみてもらったり、学校で勉強したり、毎日元気に生きていけるように助けてもらったりできるんだよ。

- ☐ 大きなけがをしたときは、十分な治療を受けられる
- ☐ いいじめや虐待、性的な暴力などから守られる

4

こどもの意見の尊重^{そんちょう}



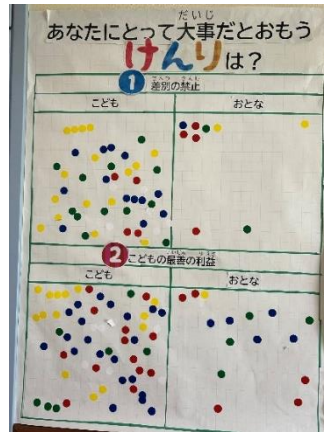
こどもには自由に意見を言える権利があるよ。大人はこどもが意見を言える場所を作り、その意見を大切にしないとけないんだ。

- ☐ 自分の意見を大人がちゃんと聞いてくれる
- ☐ 大人が意見を聞く時間をちゃんととってくれる

こども基本法ってなにあに

すべてのこどもが安心して成長し、幸せな生活ができるように、こどもの権利を守るために作られた法律だよ。この法律では、こどもは大切な存在で、大人になるまで切れ目なく行われるこどもの健やかな成長のためのサポートを大人がしっかりしてしかないといけないと書いてあるんだ。そのためには、こども自身の考えが大事にされるべきだっていうことや、学校での勉強だけでなく、遊びや休む時間もちゃんと大切にしようとか、こどもが病気になったらちゃんと治療を受ける権利があるってことを言ってるんだ。大人たちは、この法律を守ってこどもたちが安心して暮らせるように手伝うべきなんだよ。こども基本法では、こうした「こどもまんなかしゃかい」を実現していこうとしているんだ。

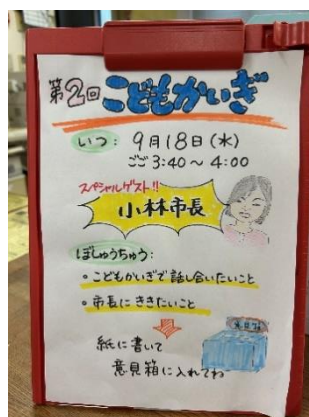
だから、もし困ったことがあったら、まわりの大人に相談してね。この法律は、みんなが笑顔で過ごせる未来を応援してくれるものなんだ。



🔄🔄🔄 こどもまんなか社会ってなあに

こどもまんなか社会というのは、こどもたちの幸せを一番に考える社会のことだよ。この考え方は、こども基本法が目指している大切なことなんだ。こども基本法は、こどもたちが安心して幸せに暮らせるように、社会全体でサポートしようというルールだよ。こどもたちのために何かをするとき、大人たちは、こどもたちの意見をしっかりと聞いて、一緒に考えることが大切なんだよ。そして、もしこどもたちが困ったときには、すぐに話を聞いて助けてくれるし、新しいことにチャレンジするときには応援してくれるんだ。これによって、安心して毎日を過ごすことができ、さらに自分の夢に向かって進む力もつけられるんだよ。

だから、こどもまんなか社会では、こどもたちが主役として、自分たちの未来をつくっていくことができるんだ。みんなで一緒にこの社会を実現するために、こどもも大人も協力し合っていくんだよ。



こども^{しさく}施策^しってな^{さく}あに

こども施策^しってというのは、こどもたちみんなが楽しく元気にすごせるように、大人たちが考えてくれることなんだよ。たとえば、学校で新しいことを学べるように授業を工夫したり、図書館にたくさんの本を集めたりすることもふくまれているよ。それから、病気になったときにすぐにお医者さんに診^みてもらえるようにしたり、毎日おいしいご飯を食べられるようにしたりするのも大事なんだ。それぞれの場所で安心して暮らせるように、交通安全について考えたりもしているよ。こんなふうに、大人たちはみんなが幸せにすごせるためにあれこれ考えてるんだ。こども施策^しってというのは、^{くたいてき}具体的な^{とりくみ}取組^しのことで、こどもまんなか社会^{こま}ってというのは、大きな目標で、両方ともとても大事なことだよ。だから、困^{こま}ったときには周りの大人に相談^{そうだん}してみてね。みんなで力を合わせて、すてきな未来をつくっていこう！

